

令和元(2019)年度

# F D研究部会活動報告書

第11号

徳島文理大学  
徳島文理大学短期大学部



## 巻 頭 言

3年前から、教員の意識改革(FD)および職員の意識改革(SD)は、全教職員が共同で責任を持って育て上げる共通認識が必要であることが提唱されている。また、2020年までに教育改革を達成することが強く要望されている。

2020年1月22日には、中教審の教学マネジメント特別委員会において、大学の内部質保証の確立に密接に関わる教学マネジメントについて、「各大学は自らの理念を踏まえ、その責任において、それぞれの実情に合致した形で構築すべきもの」と提言された。学修者本位の教育の実現のため、各大学は、卒業認定・学位授与の方針(DP)、教育課程編成・実施の方針(CP)および入学者受け入れの方針(AP)に照らし、大学全体のレベル、学位プログラムレベルおよび授業科目レベルの維持・向上を目指したPDCAサイクルの構築を目指さなければならない。さらに、国際通用性を意識した改革もしなければならない。

また、「それぞれの大学の実情」とあるのは定員確保の問題および教育・研究の質確保がその根底にあることが推察される。学内では特に2020年までに定員確保を強力に推進することが求められている。そのためには、学生の質情報の総合的評価を構築し、学習の振り返りを含めた学生のニーズのきめ細かい探索が必要になってくる。最終的には、学生の質保証のために、学習成果の「見える化」が必要になってくる。

FD研究部会では、以上の状況を踏まえ、今年度は特に、授業アンケートの改良に取り組んでいる。これまでの学生による授業評価が主であった質問内容を、学生自身の学習の振り返りを基にした質問内容に変更し、マークシート形式のアンケートからWeb方式のアンケートに変更することで、学生の意見を吸い上げやすくしている。これらにより、学生個々の状況や意見をもとにしたきめ細かい指導が行われることを期待している。

今、日本の科学技術やそれを支える人材について、いくつかの課題が出てきている。日本はこれまで、世界に追いつけ追い越せと「ものづくり」に邁進し、1970年代にはその科学技術力で世界を凌駕してきた。ところが2000年代に入り革新的な製品を生み出せなくなり低迷し始めている。これは、科学技術の発展に寄与してきた大学の基礎研究を行う環境が厳しくなってきたこともおおいに影響していると考えられる。日本の多くのノーベル賞受賞者たちは、基礎に力を入れないと、今後受賞者は皆無になると警告を発している。グローバル社会が急速に発展してきている現在、これまでの殻を打ち破り、イノベーションを起こせる人材を育てることが求められており、大学での教育や研究がますます重要になってきていると感じざるを得ない。

本活動報告が、これらの課題への対応の一助となることを希求して、巻頭の挨拶といたします。

副学長 吉田 憲一



# 目次

1. はじめに	1
2. F D活動の内容	1
3. 研修会	3
4. 全学授業アンケート	7
5. 研究授業	9
6. 卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート	14
7. ICT利用による運営改善	17
8. おわりに	20

## (資料編)

1. 要綱・内規	資料編 1
2. F D研究部会 部員名簿・会議一覧	資料編 3
3. 研修会	資料編 5
4. 全学授業アンケート	資料編 10
5. 研究授業	資料編 21
6. 卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート	資料編 25
7. 用語解説	資料編 30



## 1. はじめに

FDは、大学設置基準「(教育内容等の改善のための組織的な研修等)第二十五条の三 大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」(平成20年4月1日施行)に基づき、全ての大学において、法的義務となっている。本学の「FD研究部会」も、平成19年12月、FD活動の推進・支援を目的として設立された。

「徳島文理大学教育開発機構設置要綱」(平成29年4月1日施行)は、「当面する教育上の諸課題又は学長からの諮問事項を研究協議」する「学長直属の教育開発機構」内の組織について、「(1) 全学教務委員会 (2) 入試制度検討部会(入学前教育を含む。)(3) 全学共通教育研究部会 (4) FD研究部会」と規定している(資料編1頁参照)。部会員は学長による任命であり、原則として毎月開催される部会である。本学におけるFDの重要性は明らかである。

本誌「FD研究部会活動報告書(第11号)」は、令和元年度のFD活動成果の抄録である。ご一読いただき、ご意見・ご要望を各学部のFD委員までお寄せいただければ幸いです。

## 2. FD活動の内容

大学全体のFDは、なんといっても、全教員が一堂に会する全学FD研修会が要となる。その研修を契機に、授業の「内容」と「方法」に新たな試みが生まれる場合がある。

平成30年度の全学FD研修会のテーマは、「防災・減災及び防災教育における大学の役割」であった。企画を担当した筆者は、研修会開催案内に、「(講師の)栗田充治 亜細亜大学学長は、『防災教育から被災地学習へ』(2016年)の論文で、『被災地の『現場』に触れ、被災者の体験を聞き、彼らの生活再建と地域復興へ向けて生きようとする思想を聞く』授業実践を明らかにされている。栗田学長のご講演を契機に、新たな時代の防災教育・ボランティア教育に取り組む議論を全学的に活発化していきたい」と記した。大規模な震災の発生を想定しての防災教育の確立は、徳島の高等教育機関として125周年を迎える本学において、喫緊の課題の一つであると考えたからである。

1年後、実際に、学内の複数学部の教員の力を借りて、「総合科目B(学生災害ボランティア入門)」を開講することができた。

シラバスの授業概要には、「本学の建学の精神である『自立協同』に基づき、人々がそれぞれの地域で他者との協同のもと自立しながら生きていく上で、いつか必要とされるであろう災害時のボランティアについて、講義と受講生自身によるアクティブラーニングによって学ぶ。講義は人間生活学部・保健福祉学部・総合政策学部および地域連携センターの教職員、さらに徳島県政策創造部の企画による招聘講師が担当し、議論におけるファシリテーター役を務める。最終日の8月29日は、被災地にて学外実習を行う」と記した。

学生たちと訪れた被災地は、平成30年8月の西日本豪雨災害で町全体が水没し、犠牲者51人の8割超が1階部分で発見されたという、岡山県倉敷市真備町であった。その後、計3回、徳島県の委託事業として、約40名の学生が真備町で、被災者とともに、写真洗浄のボランティアをすることになったのである。

学内の授業の会でも、2号館アカンサスタジオでの説明に続き、1階のフロア全体を活用し、車椅子を実際に用いた実践となった「要援護者（高齢者・障がい者）の避難を支援する」（柳澤幸夫・保健福祉学部理学療法学科教授）や、「災害時の医療と看護何が問題？」（茅田羅勝義・保健福祉学部看護学科教授）における、〈人工呼吸器やたん吸引器などの電気機器を使って自宅で暮らす患者が停電に見舞われたらどう対応すればいいのか〉についての実践的な学びなど、知識と実践体験があれば、発災時に一市民にもできることが沢山あることを、受講生は具体的に知ることになった。

さて、令和元年9月17日(火)に開催した全学FD研修会は、演題：「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」、講師（森朋子・関西大学教育推進部教授）である。

企画の発端となったのは、小林郁典・FD研究部会副会長が、森先生の講演「深い学びを促すアクティブラーニングのデザイン」を徳島大学で聴かれたことによる。実際に講演が実現するまでの過程で、森先生から、徳島文理大学では、タイトルを変えて実施したいという提案があった。結果として講演内容をよりの確に示したものになったと思っている。なぜなら、繰り返されるFD研修において、原点は、学生たちに「分かった」と思ってもらえる授業設計と実践の繰り返しにあるからに他ならない。上述のボランティア入門の授業で、受講生に混じって新しい知識ばかりを学ぶことになった筆者も、改めて、知識は自信になると「分かった」。

佐藤浩章編著『シリーズ大学の教授法2 講義法』（玉川大学出版部、2017年）には、「講義法に役立つ20のモチベーション理論」が紹介されている。森先生が講演で、私たちに巧みに説かれた「学習理論研究に裏打ちされた授業実践は、どのようにすれば学生たちに学び続ける、考え抜くためのモチベーションを持たせるか」というヒントを、本学の教員に与えてくださることになった。受講した教員のアンケートによる満足度もとても高かった。ちなみに、副学長のお一人は、森先生が紹介した反転授業をすぐに授業に取り入れられ、その効果を短時間で実感されたとのことである。

次に、実施4年目となった「新任・昇任教員研修会」は、初めて、香川キャンパスでの開催を企画したが、出席できる研修対象教員が同キャンパスにいなかったため、徳島キャンパスでの開催となった。今回も、講師役をご担当いただいた学内教員に対する、参加教員の事後評価は高く、FDモデル教員が育ちつつあると思われる。

また、全学授業アンケートは、小林副会長のご尽力により、予告通り、令和元年度からWeb化された。授業方法を中心とした評価を主目的とするのではなく、科目ごとの学生自身の学びの振り返りを期末に行う学修活動の一環に位置付ける、新たな意義を持つアンケートが始まった。学生たちがシラバスをきちんと読み、自らの責任で選択した科目を、最終週には自らの学修態度を含めて振り返り自己評価することを習慣にする。このような「目標を持って学修すること」がこれから期待できる。

もう一つの学生アンケート、すなわち卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケートは、一足早く、昨年度、全学的にWebを用いた方式に移行している。結果として判明したのは、本学における学びの全体について、高い満足度となっている学部・学科が多いという事実である。ただし、学生の学習環境を中心に、ここで指摘された課題の解消は、全ての学部学科が常に求められ続けることになる学生定員確保に向けて、不可欠であることは、当然のことであるが、強調しておきたい。



最後になるが、教員相互の授業参観（研究授業）は、参加教職員数が増えそうにない。参観と事後の意見交換という方式ではなく、参加教員自らを学生の立場に置く体験型・参加型の研究授業こそが、求められていると思われる。本学の中期計画（令和2年度～6年度）「教育研究 ○教育研究の質の向上」の項目では、中期目標「(2)教授方法の工夫改善を行います」において、「総合大学の特性を生かした文理融合の教育を充実し、各学部学科間の交流の拡充に取り組みます」との中期計画が示されている。この間に、進むと思われる「文理融合教育」「各学部学科間の交流」が、各教員の授業体験の場を提供することに期待したい。

### 3. 研修会

#### 3-1 現状

本学FD研究部会の取り組みとして、教育に関する研修会の開催がある。これらは、主に「学内研修会」「学外研修会」「新任・昇任教員研修会」の3つの形で展開している。また、本学では、FD研究部会とSD推進委員会が独立して活動しているが、本年度の研修会では、FDとSDを合わせた研修会も一部開催している。

本年度実施した学内でのFD研修会は4回で、下記(1)に示すとおりである。これらは、『平成30年度FD研究部会活動報告書』において指摘された改善点、すなわち「時代に即した研修会とともに参加者の増加を図ること」を考慮して行った。本学の教員を講師とする研修会「学習支援システム Google Classroom を利用した授業体験」や外部講師による「アクティブラーニング実践」などの今後の教育に欠くことのできない内容を企画し、また合同教授会の開催後などの参加しやすいタイミングでも実施した。参加者には長丁場になり大変であるが、外部講師の熱心な講演やアドバイスで、FD研修の重要性と受講の満足感が得られたものと思われる。(2)は愛媛大学で行われた学外での研修会であったが、本学からも参加している。(3)は今年度実施した新任・昇任教員研修会を示す。

#### (1) 学内研修会

第1回FD研修会（SPOD内講師派遣プログラム・第2回新任・昇任教員研修会）

- ・日時：9月2日(月)13:30～15:00（徳島）9月3日(火)10:30～12:00（香川）
- ・演題：「アクティブラーニング実践-だれにでもできる！グループワークのためのファシリテーション-」
- ・講師：仲道 雅輝（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師）
- ・会場：徳島キャンパス 2号館2階 アカンサススタジオ  
香川キャンパス 図書館3階 AVホール
- ・参加者：徳島キャンパス 27名 香川キャンパス 16名 合計 43名

第2回FD研修会（SPOD遠隔配信・第3回新任・昇任教員研修会）

- ・日時：9月10日(火) 10:00～12:00
- ・演題：「大人数講義法の基本」

- ・講師：小林 直人（愛媛大学 学長特別補佐 教育企画室長）
- ・会場：徳島キャンパス 25号館4階 スタジオ型講義室（遠隔配信）  
香川キャンパス 図書館3階 AVホール（遠隔配信）
- ・参加者：徳島キャンパス16名 香川キャンパス5名 合計21名

### 第3回FD研修会

- ・日時：9月12日(木) 15:00～16:30
- ・演題：「学習支援システムGoogle Classroomを利用した授業体験」
- ・講師：小林 郁典（本学理工学部 准教授）、松田・松井（情報センター）
- ・会場：徳島キャンパス 総合政策学部PC教室
- ・参加者：21名

### 第4回FD研修会（全学FD研修会・第4回新任・昇任教員研修会）

- ・日時：9月17日(火) 合同教授会終了後 16:00～17:00
- ・演題：「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」
- ・講師：森 朋子（関西大学 教育推進部 教授）
- ・会場：徳島キャンパス 2号館2階 アカンサスホール  
香川キャンパス 図書館3階 AVホール（遠隔配信）
- ・参加者：徳島キャンパス205名 香川キャンパス96名 合計301名
- ※欠席者はサーバに収録された動画で受講し、アンケート（感想）を提出。  
徳島キャンパス 欠席者59名 アンケート提出者35名 未提出者24名  
香川キャンパス 欠席者22名 アンケート提出数15名 未提出数7名

### (2) 学外研修会（SPOD：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）

SPODフォーラム2019「大学教育の組織力」

- ・開催日：2019年8月28日(水)～8月30日(金)愛媛大学 城北キャンパス
- ・参加者：徳島キャンパス5名 香川キャンパス7名 合計12名

### (3) 新任・昇任教員研修会

- ・対象教員：徳島キャンパス20名 香川キャンパス1名 合計21名
- ※昇任教員は、助教・講師に昇任された先生の内、これまで研修を受講されていない先生
- ・研修回数：4回であるが、そのうち3回はFD研修会と同時開催

### 第1回新任・昇任教員研修会

- ・日時：5月18日(土) 10:00～14:30
- ・場所：徳島キャンパス 25号館4階 スタジオ型講義室
- ・内容：
 

10:00～10:20「本学の教育について」	田村 学長
10:20～10:40「本学の学生の状況とFD活動について」	青野 部会長

- 10 : 40～11 : 20 「これからの高等教育と授業に役立つヒント」 小林 副部会長
- 11 : 20～12 : 00 「初任者教員研修で学んだことー授業デザインから始めるー」 宮原 先生
- 12 : 00～13 : 00 「学長と新任・昇任教員との意見交換会」
- 13 : 00～14 : 30 「アクティブラーニング型授業を体験してみよう」 宮原 先生

#### 第2回新任・昇任教員研修会（第1回FD研修会と同時開催）

- ・日 時：9月2日(月)13:30～15:00（徳島）9月3日(火)10:30～12:00（香川）
- ・演 題：「アクティブラーニング実践-だれにでもできる！グループワークのためのファシリテーション-」
- ・講 師：仲道 雅輝（愛媛大学 教育・学生支援機構・教育企画室 講師）
- ・会 場：徳島キャンパス 2号館2階 アカンサススタジオ  
香川キャンパス 図書館3階 AVホール

#### 第3回新任・昇任教員研修会（第2回FD研修会と同時開催）

- ・日 時：9月10日(火) 10 : 00～12 : 00
- ・演 題：「大人数講義法の基本」
- ・講 師：小林 直人（愛媛大学 学長特別補佐 教育企画室長）
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館4階 スタジオ型講義室（遠隔配信）  
香川キャンパス 図書館3階 AVホール（遠隔配信）

#### 第4回新任・昇任教員研修会（全学FD研修会と同時開催）

- ・日 時：9月17日(火) 合同教授会終了後 16:00 ～ 17:00
- ・演 題：「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」
- ・講 師：森 朋子（関西大学 教育推進部 教授）
- ・会 場：徳島キャンパス 2号館2階 アカンサスホール  
香川キャンパス 図書館3階 AVホール（遠隔配信）

### 3-2 点検・評価

学内の研修会については、SPOD遠隔配信の第2回FD研修会「大人数講義法の基本」は参加者が少なかった。第3回はPCを用いた演習形式のため人数制限をしている。本学の教育方針が少人数クラスによるきめ細かな指導であるので、大人数の講義形式は少なく関心が低かったと思われる。参加者の興味や関心を集めるためにはIT（iPad、タブレットや電子黒板など）を用いた教育方法の改善をテーマにした研修会が必要と思われる。第4回FD研修会では、「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」として、時期を得たテーマであり、また合同教授会の直後の参加を義務づけたために、ほとんどの教員が参加した。欠席者に対しては、Web配信も行なった。今後は、研修テーマに対して委員の意見だけでなく先生方に希望したい分野の調査も必要かもしれない。

新任・昇任教員研修会については、対象の教員21名を一堂に集めて研修を行い、実践的なアクティブラーニング型授業の実技指導やFD研修会の講習を行った。本研修会

参加者のアンケート回答では、「アクティブラーニングを経験することができ、授業を受ける学生の気持ちが分かりました。良かったです。」「授業を担当する上での心構え、一回一回の講義の到達目標を示すこと等が参考になった。」「時代が進んでいるのでこれにあわせて講義の方法も変えていく必要があることがわかった。他者との意見の違いについて学ぶことができた。」など、好意的な意見が述べられていた。また、研修会の要望では、「インターネットなどを活用した授業、ITを利用した講義について知りたいたいと思いました。」「国家試験がある学部において、学力差のある学生を教えるときに具体的にどのようにすれば良いかを知りたい。」などの意見もあり、今後検討していく必要があると感じた。本学の教員として、学長および他教員との良い交流の場となったことがうかがえる。

### 3-3 改善計画（改善点）

上述の様に、FD研究部会での議論と工夫を重ね、マンネリ化しないように年々より良い研修会となるように企画を改善している。相応しい講師・予算面や研修テーマなど様々な問題があるが、今後とも時代に即した研修会の開催を計画していきたい。また、参加者の増加を図り、有意義な研修会になるように検討する必要があると考える。

大学全体が一丸となってスムーズな学生教育を進める上では、FDとSDの協同も一考であろう。

#### （SPODコア校主催研修会参加報告書）

香川大学「FDスキルアップ講座（基礎編）」（1月6日）参加報告

保健福祉学部看護学科 田村 幸子

新任教員を対象としたFD研修として香川大学で開催された、①「学生の学びを促すシラバスの書き方」②「基礎から学ぶ学習評価法」③「学生参加型授業の技法」の研修に参加した。

「学生の学びを促すシラバスの書き方」においては、学生の学習を今よりも促進するために、効果的なシラバスをかけるようになるという目的で、4人ずつの3グループで課題に関して意見交換を行い、発表するという形式であった。実際に、シラバスに記載されている目標をもとに、その目標のどこが問題となるのか等検討したり、評価に関わる内容の記載時の注意点などについてもレクチャーを受けた。シラバスは学生との契約書のようなものであり、学生の内発的動機づけ・外発的動機づけを高めるためにも一つの戦略になる問ことが実感できた。

「基礎から学ぶ学習評価法」においては、評価のための基本やルーブリック評価方法について説明を受けた。ルーブリック評価では、実際に学生への課題を想定し、その課題に対して、どのように評価していくか、評価の観点、評価レベルなどを検討し個々で作成したものを、グループでシェアするという形式であった。この評価を作成していく段階で、学生自身が、どの程度まで努力すれば、どういう評価がもらえるのか、学生にとっての行動指針にもつながることが実感できた。評価の客観性や学生自身により学習

活動の評価ができるという利点がある反面、クリエイティブなものをきちんと評価できるのか、基準により評価することで学生の主体性を奪うことにならないかといった問題点があることにも気づかされた。

続いての研修では「学生参加型授業の技法」というテーマの研修で、様々な授業方法として 15 項目提示されていた。そうした授業方法の中で、実際に自分が実践したことある方法について、どのように実践しているかグループ内でレクチャーを行い、発表する中でまだ実践したことのない方法について、レクチャーを受けることができた。言葉だけではなく、実際に、どのような方法でそれを実践しどういう効果が得られているのか、質問もできたので、より深めることができた。

また、これらの研修に参加する中で、研修内容はもちろんであるが、どのようにグループワークを展開していくか、1 枠の研修をどのように組み立て、参加者のニーズを満たしていくか、その方法手段からも多くの学びがあった。

まずは、しっかりと基本を学び、そこからさまざまな方向へ発展させていければと考える。様々な科目の諸先生方のご意見をうかがえることも素晴らしい経験となった。

## 4. 全学授業アンケート

### 4-1 現状

本学では平成 20 年度以降、授業改善のための基礎資料を収集する目的でアンケート形式により学生の授業評価を実施してきた。平成 25 年度からはハイブリッド授業評価アンケート方式を導入し、マークシート方式で学生からのアンケートを行い、その結果を電子化し、過去の結果との経年比較、全体平均との比較、クロス集計など結果分析を行ってきた。また、各授業担当教員は、アンケートの集計結果に対するコメントや翌年度以降の授業に向けた対応を「アクションプランシート」として Web 上で作成し、アンケート結果とアクションプランシートを合わせて学生に公開するシステムをとってきた。これは教員にとっても、授業を行うにあたり大きな効果があったがいろいろ課題も出てきた。FD 研究会で様々な面から検討を行った結果、11 年間行ってきた「全学授業評価アンケート」は、本年度より新しく「全学授業アンケート」と名称を変え、内容も吟味し、全て Web 形式のアンケートに移行することになった。

新しい「全学授業アンケート」は以下の 2 つを目的としている。

- (1) 学生自身の学びの振り返り・自己評価に基づく、学習態度・方法の改善
- (2) 受講生全体の自己評価の確認に基づく、教員の授業内容・方法の改善

### 4-2 点検・評価

#### (1) アンケートの実施状況

前期：学生アンケート 7月16日(火)～8月5日(月)  
集計結果の公開 8月9日(金)～  
教員コメント 8月9日(金)～9月19日(木)  
集計結果・教員コメントの公開 11月5日(火)～

※前期のアンケートは試行とした。

後期：学生アンケート 1月 8日(水)～2月10日(月)  
 集計結果の公開 2月14日(金)～  
 教員コメント 2月14日(金)～3月19日(木)  
 集計結果・教員コメントの公開 3月14日(土)～

表1 授業アンケート実施状況(令和元年度)

	前期			後期		
	対象数	回答数	回答率(%)	対象数	回答数	回答率(%)
全 体	47,473	31,831	67.1	45,422	28,077	61.8

## (2)教員によるフィードバックの状況

教員によるフィードバックである教員コメントの記入率は表2のようになっている。

表2 教員コメントの記入率(令和元年度)

	前期	後期
全 体	68.8%	76.9%

授業アンケートの集計結果と教員コメントの開示範囲は学内のみとし、開示期間はコメント記入期間の約1週間後から1年程度としている。

なお、今年度は、学生回答率の母数となる『履修登録している学生の総数』について、前期分は令和元年5月時点、後期分は12月時点に教務システムに登録されている履修登録数の総数を母数としている。また、教員回答率の母数となる『教員の担当科目数の総数』について、前期分は令和元年5月時点、後期分は12月時点に教務システムに登録されている教員の担当科目数の総数を母数としている。

### 4-3 改善計画(改善点)

今回、新方式による本年度の「全学授業アンケート」の学生の回答率は、前期67.1%、後期61.8%であった。また、教員コメントの記入率は、前期68.8%、後期76.8%であった。

小さな改善点はその都度調整してきた。その結果、今回のアンケートは、ほぼ順調に実施されたものとする。

ここで現時点でのアンケートの運用上の注意点を2点述べておきたい。

○第1クォーターの科目は前期の科目と同じ時期、また第3クォーターの科目は後期の科目と同じ時期にアンケートが実施される。

○通年の科目は前期の終わりとは後期の終わりに2回アンケートを行ってもらう。

この2点は受講学生に周知する必要がある。

この「全学授業アンケート」が学生の学習強化ならびに本学の教育の質の向上に寄与できるよう、またアンケートの100%の回答率を目指し、改善できるところは改善し、さらに内容・実施方法等についても議論を重ね、より良いものにしていきたいと考えている。

## 5. 研究授業

### 5-1 現状

「研究授業」は、平成 20 年度後期より、徳島・香川両キャンパスの全学部において実施しており、今年で 12 年目となる。令和元年度は「教員相互による授業参観型」と「目標設定型」の研究授業を合わせて、徳島キャンパスで 16 科目（前期 5 科目、後期 11 科目）、香川キャンパスで 8 科目（前期 2 科目、後期 6 科目）、両キャンパスで合計 24 科目の実施となった。各学期の実施回数は、各学部及び各学科の教員数及び講義数の実情を踏まえながら決定している。

#### (1) 目的

研究授業を開始した当初より実施しているのは「教員相互の授業参観型」である。教員は授業を参観し、授業改善のために参考になるもの、取り入れられるものを見つけ、自分自身の授業に活かしていくことが目的である。各教員の教授法の向上と学生の理解力や思考力の向上を目指しており、授業担当者の教授法に対し悪い点を指摘するためのものではない。

「目標設定型」は平成 24 年度より導入している。あらかじめ教授方法や授業運営上の改善点を設定し、定めた期間の中で調査・研究を行うものである。効果的な授業技術の掘り起こしとそれらの共有が主な目的となる。

「オープンクラスウィーク」は、平成 23 年度より理工学部で試験的に導入し、翌年から希望する学科は実施するようになった。ある一定期間にいずれの講義でも自由に聴講できるように期間を設けている形式である。

#### (2) 実施方法

各学部及び学科は、「教員相互による授業参観型」、「目標設定型」、「オープンクラスウィーク」の内いずれか、もしくは複数の研究授業を選択することができる。年間の実施頻度は各学部及び学科に委ねている。

「教員相互による授業参観型」は、まず学期始めに各学部及び学科の授業担当者と研究授業を補助する授業協力者を定め、授業担当者は研究授業を対象とする科目及び実施日を決める。実施科目と実施日についてはFD研究部会が情報をまとめ、事務局が「研究授業予定」一覧表を作成し全学の教員に周知した。この一覧表には「教授法」の項目があり、全教員が事前に教授法を知ることができるようになっている。また、事務局が研究授業の科目毎に全教員に対してメールを送信し周知を行い、各研究授業科目への興味と参加の動機付けとなることを目指している。

参観範囲は、所属学科に関係なくどの科目も参観可能である。研究授業の進行及び記録は授業協力者（あるいは学部、学科の評価・FD委員会）が行い、原則として1講時90分の内授業開始から60分を授業参観とし、残りの30分を授業担当者、授業協力者及び授業参観者による意見交換会の時間とした（授業90分、意見交換20分の場合もある）。意見交換会では「(1) 目的」にある研究授業の主旨に基づき討議を行った。研究授業実施後は、2週間以内に別紙の様式（図1）に授業担当者と授業協力者（あるいは

学部、学科の評価・FD委員会)によって、研究授業記録を作成することとした。研究授業記録はFD研究部員を通してFD研究部会へ提出される。

「目標設定型」は、授業技術の向上のためテーマや新しい取組み等を目標に挙げ、その目標を達成するために必要十分とされる実施期間を設定し、各学期始めに学内で公表する。その目標は期間内に達成可能なものを設定しなければならない。実施期間終了後は、代表者はすみやかに実施した取組みについて研究授業記録(図1)を作成し、FD研究部会に提出する。

「オープンプラスウィーク」は、ある一定期間にいずれの講義も自由に聴講できるような期間を設けた形式である。

研究授業(教員相互の授業参観)記録			
学部		学科	
授業者		科目名 (シラバス番号)	( )
授業協力者		実施教室	
実施日時	平成 年 月 日 曜日 調時		
対象学生		受講学生数:	名
係			
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観教員数	名		

研究授業(目標設定型)記録			
学部		学科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目	受講学生数: 名		
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳 )		

図1 研究授業記録様式

## 5-2 点検・評価

表3に、今年度と過去9年間の学部、学科別の研究授業実施数と参観者数の推移を示す。「教員相互による授業参観型」と「目標設定型」を合わせた年間研究授業実施数はその年により変動があるが、今年度は24科目であり昨年度と比較して減少した。また、年間研究授業実施数の減少に伴い、年間参観者総人数も減少している。昨年度と比較すると、前期後期共に実施した学科が減っていること、また実施したものの参観者数が0人であった科目が増えたことも影響していると考えられる。

表4には、各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果を、一部抜粋したものを示している。各学部及び学科から提出された報告書によれば、「レ



表3 学部、学科別の研究授業実施数と研究授業の参観者数(名)の推移

年度	平成22 2010		平成23 2011		平成24 2012		平成25 2013		平成26 2014		平成27 2015		平成28 2016		平成29 2017		平成30 2018		令和元 2019	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
年間研究授業実施数	17	12	16	16	17	16	11	17	4	15	18	15	10	18	16	15	16	15	7	17
香川薬学	14	14	32	25、18	25、22、26	19、25、26	15	19	9	13	18	22	27	21	20	15	17	22	23	21
日本文学	9		9								9				7			8		
英語英文化	4		2				3		4				2		3				3	
文化財		26			5		23		4		5		5							3
宿泊セミナー			12		14		8		6		5、4		4、5		4		5			3
学部内合計	4	26	21	2	19	9	11	23	15	4	14	9	11	5	11	3	5	14	3	3
機械創造	10		7		6		4		2		5		4		3					1
電子情報		4		5																
ナノ物質		6	4																	
理工学部	11		2		4		5		4											
臨床工学			2		10		5		2											
学部内合計	21	10	11	7	10		5	4	2		8		10		6					1
薬学部	7	5	7	8	5	2	7	4	7	7	未提出	未提出	未実施	4	4	4	8	7	4	11
人間生活	5		2		1		2		2	2	3		3		3			2		1
食物栄養	3		4		4		2		1	1	2		1		7			7、8		3
心理	2		5		2		1		2	2	3		3		4			1		3
児童	6		5		1		2		2	2	5		1		4			3		1
行動科学	3		4						1											
建築デザイン	4		3		5		2		1	1	4		1		2			2		4
学部内合計	23		12	11	11	6		9	9	12	12	17	8	10	15	18	1	25	4	10
総合政策	8	5	6	6	8	4	5	6	6	6	5	5	10	3	3	3		3	2	2
音楽学部	2	3	3	4	3	3	0	0			0	2	1	3						
臨床工学					8		6													
診療放射線						7	5											0		0
人間福祉	2	3	3	1	1	1	1	1			1		4	4	4	4	3	2		2
理学療法	1	1	4		3		2	0			1		0	1						0
看護	14	12	6	6	8	8	8	8	13	13	9	12	7	8	5	5	5	5	4	5
口腔保健																				
学部内合計																				
保健福祉学部																				
保健福祉学部																				
看護																				
理学療法																				
看護																				
口腔保健																				
学部内合計																				
短期大学部																				
保育																				
生活科学																				
商科																				
言語コミュニケーション	2		3																	
音楽	4	3	5																	
学部内合計	6	7	8	6																
前・後期別 参観者数	101	86	110	98	139	119	62	80	30	54	69	89	58	74	62	65	56	69	40	65
年間参観者総人数	187		208		258		142		84		158		132		127		125		105	
1科目当たりの参観者数	5.9	7.2	6.9	6.1	8.2	7.4	5.6	4.7	7.5	3.6	4.6	4.9	5.8	4.1	6.2	4.1	3.5	4.6	5.7	3.8

表 4 各学科の授業参観による参観者の意見と目標設定型の研究授業の効果

[教員相互による授業参観型] 各学科の授業参観による参観者の意見	
研究授業報告書より一部抜粋：●好意的な意見 ■改善を求める意見（なお、全記録は別CD資料）	
(香川薬学部薬学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学生に、書かせたり、考えさせたりするなど、学生を講義に集中させる工夫が必要であると考えられる。</li> <li>■ この講義では、薬物依存症、アルコール依存症の疾患として進めていたが、一般向けの講座のように感じ、カンナビノール、コデイン、エフェドリン、アンフェタミンなどの薬理学と、薬物治療学の細かな説明が不十分であるよう感じられた。</li> </ul>
(文学部全学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 操縦前の機器点検リストを作成して、一つずつ確認しながらチェックしているのに感心した。</li> <li>■ しかしながら、まだ不慣れな印象でチェックに時間がかかりすぎている。</li> </ul>
(文学部英語英米文化学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● レジюмеに関して、最初にまずその概要を終わりの部分まで述べていく、というやり方は印象的だった。</li> <li>■ 教員側の一方通行的な講義になっているところが気になった。</li> </ul>
(理工学部機械創造工学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 飽きさせない配慮が十分になされており、学生たちにとって満足の高いものであると思いました。</li> </ul>
(薬学部薬学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 板書が見やすく、まとまっている。説明も聞き取りやすかった。スライドは良く工夫されていると思った。</li> <li>■ ある事項を説明する前に、その重要性・難易度等を説明しておく、より分かりやすくなると思った。</li> <li>■ 別に行われている化学実習と上手く連動させることで、より効果的・効率的に学生に教えることができる感じた。</li> </ul>
(人間生活学部人間生活学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホワイトボードの活用がうまくできていたが、グループの発表では、声が小さくて聞き取れないときがあり残念だった。</li> <li>● 学びから標語につなげる工夫がよかった。知識の定着には、表現することはうまい方法であると思われる。</li> </ul>
(人間生活学部心理学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分たちで、ここまで考え、発表論文集を作成できたことは素晴らしい。</li> </ul>
(人間生活学部児童学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 講義一辺倒ではなく、随所に演習課題をはさみ、学生が自ら考えながら授業が進んでいくアクティブ・ラーニングになっていた。</li> </ul>
(人間生活学部メディアデザイン学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 説明がわかりやすかった。</li> <li>● レポートの提出状況を見ながら授業を進めていたのは参考になる。</li> </ul>
(人間生活学部建築デザイン学科)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ討議による問題解決方法に興味を持った。</li> </ul>

(人間生活学部食物栄養学科)

- 授業の進行等に関して、問題がないとのことである。
- 教科書を一冊前期に終わらせる予定であるためペースが速い。そこで、もう少し簡潔にゆっくりと授業を進めていくほうが良いとの意見をいただいた。

(総合政策学部総合政策学科)

- ディスカッションのテーマのレベルを授業が進むにつれて変えてみてはどうか？

(音楽学部音楽学科)

- 科目名である「鑑賞」となれば受け身となることが多いが、プリペアドピアノについて知識を学び、実際に作成し、演奏するに至るまで、アクティブラーニングを取り入れながら最終的に「鑑賞」へつながることがとても良い。

(保健福祉学部看護学科)

- 授業は工夫され学生の理解が深まるように構成されていた。
- グループワークの後、講義をし、授業終了時にはグーグルクラスルームにてミニテストをするようになっている。学びの内容が自己評価できるように工夫されていた。
- 今後は考えさせる内容でグループワークをすとなお効果的であるとする。

(保健福祉学部人間福祉学科)

- 国家試験さながらに時間を計り、学生さんの分からない箇所は、自分で調べることで自主性を養う授業である。
- パワーポイントの字が小さく少し見えにくいように感じたが、学生さんは教室の前列に座り見えにくさはないようである。

(保健福祉学部臨床工学科)

- スライド等が見やすく、まとめがわかりやすかった。
- 一方的なので予習の指定もあるため、学生に質問すると良いのでは。

(保健福祉学部口腔保健学科)

- 授業の冒頭に小テストを行うことで、個々の学生の理解度を把握するとともに、クラス全体に対する授業による学習効果を確認する工夫が認められた。

(短期大学部商科)

- 秘書としての意識づけを学生とのやりとりの中で実践しているのが良い。
- グループ分けの際、コミュニケーションをとりながら時間厳守で行うのがよい。

[目標設定型] 具体的効果 (研究授業報告書より一部抜粋)

(理工学部ナノ物質工学科) プロジェクトラボB

目標：卒業研究の目的を理解し、考えを表現する能力を身につけさせる。

結果 (効果) :

- 個別の学生の能力には差があるが、全体的にポイントポイントをしっかりと抑えた良い発表が多かった。参加教員は口をそろえて年々良くなっていると評した。
- 学生の発表や聴講の態度は一定のレベルまで達した事から、教員間で共通認識を持つことと、最低限の指導を行う事が可能となった。
- 指導教官によって発表だけでなく他者の評価という点で適切に判定できていない (つまりポイントが理解できていない) ケースがあった。

ポートの提出状況を見ながら授業の進めていたのは参考になる。」との意見が挙げられ、他、学科によっては「今後は考えさせる内容でグループワークをするとなお効果的であると考える。」などといった授業改善に向けられた意見も出されていた。

「オープンプラスウィーク」については、今年度は実施した学科はなかった。

### 5-3 改善計画（改善点）

次年度に、これまで同様の実施方法や周知方法で継続して行う場合は、各学科に向けて周知に力を入れるとともに、研究授業の重要性と意義について合同教授会や学部教授会で強く発信し続けていきたい。そして研究授業の参観者数の増加について引き続き検討課題としていきたい。

しかし、平成 27 年度以降は年間参観者総人数が毎年減少し続けているため、次年度に改めて研究授業の在り方を検討する必要もあると考える。

## 6. 卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート

### 6-1 現状

本学では、卒業生（正確には、卒業時の学生に対する）を対象とした満足度評価アンケートを、平成 21 年度から継続的に実施している。卒業生満足度評価アンケートは、学生が卒業時に、入学時から卒業までの期間における学生生活の振り返りをとおして、本学の教育に対する学生からの評価を受け、教育の充実と改善に資する資料を得ることを目的に行われ、外部への情報発信の役割も併せ持つものである。

卒業生満足度評価アンケートという名前からは、「卒業してから数年後の人」に対しても実施しているように感じられるとか、「何に対する満足度なのかがわかりにくい」とよく言われていた。そこで、今年度より「卒業生満足度評価アンケート」の呼称を「卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート」に変更した。ただし、これは長いので「卒業生・大学生生活満足度アンケート」と呼ぶことがある。

令和元年度のアンケートの評価項目は、前年度と同じものとした。よって質問項目は、平成 28 年度から 4 年間変えていない。これにより、すべての項目についての経年変化を観察することが可能になっている。

令和元年 12 月の定例合同教授会において、これまでと同様に、卒業予定者に大学生生活満足度アンケートを実施することを告知し、同時に回答用のシステムをスタンバイさせた。新しいシステムのログイン画面は図 2 のようになっており、学生は、インターネットに接続している PC やスマートフォンのブラウザを利用して Web 上のアンケートに回答する。そのログインの URL は、次のとおりである。

アンケート学生ログイン用 URL <http://sd.bunri-u.ac.jp/enq/>

回答期間については各学部・学科に委ねることにしていたが、原則として卒業証書授与式の日までとした。該当する学生に対しては、FD 研究部会事務局より 1 月上旬に電子メールにて回答を依頼した。さらに、各学部・学科の担当教員からも学生に対して適宜回答を依頼した。このとき、回答状況がリアルタイムでわかるように、図 3 のような

徳島文理大学  
徳島文理大学短期大学部

2020年3月卒業予定者対象  
大学生生活満足度アンケート

この調査は2020年3月に修了される皆様に、本学での学生生活を振り返っていただき、教育内容や施設、学生生活などについての意識を知るためのものです。  
集計結果は本学の教育の充実と改善を図るために役立てます。大変お手数ですが、以下のアンケートに回答をお願いいたします。

【重要】回答者の学籍番号は回答の重複を防ぐために利用するだけで、最終的には誰がどのような回答をしたのかはわからないように集計します。安心して真摯な回答をお願いいたします。

本システムの利用にはログインが必要です。  
学生ポータルサイトの利用時と同じログインIDとパスワードを入力してください。

【学籍番号】(例：155200)

【パスワード】

**ログイン**

【回答時の連絡事項】  
 (1) 回答できるのは1回だけです。回答後に回答内容の変更はできません。  
 (2) 自由記述欄に誹謗中傷的な記入はおやめください。このような記入があった場合には回答を削除することがあります。

徳島文理大学・全学FD研究部会

図2 アンケートログイン画面（学生用）

卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート（回答状況）

各所属の回答者数をクリックすると回答済みの学籍番号一覧が表示されます

所属名	回答者数
《大学院》薬学研究科薬学専攻博士課程	0
《大学院》文学研究科博士前期課程	0
《大学院》文学研究科博士後期課程	0
《大学院》工学研究科システム制御工学専攻博士前期課程	0
《大学院》工学研究科ナノ物質工学専攻博士前期課程	1
《大学院》工学研究科システム制御工学専攻博士後期課程	0
《大学院》工学研究科ナノ物質工学専攻博士後期課程	0
《大学院》人間生活学研究科食物学専攻博士前期課程	1
《大学院》人間生活学研究科生活環境情報学専攻博士前期課程	0

図3 学科別（部局別）回答状況確認システム

インターネット上で稼働するシステムを構築した。このシステムは各学科（部局）の回答者数を閲覧することができ、さらに回答数のところをクリックすると回答を済ませた学籍番号のリスト一覧が閲覧できるようになっている。ただし、アンケートの回答内容は閲覧できない。

アンケートの内容は資料編 29 頁の 6-5 のようになっている。アンケート結果は、全体、学部別に集計し、資料編 26 頁のような図表に整理した。これらは実施年度の翌年度のはやい時期に、定例合同教授会で報告される。また、記入された自由記述欄の内容についても、一覧にまとめて部局長会で報告している。

## 6-2 点検・評価

今年度のアンケートは卒業予定者 1020 人を対象に行い、743 人から回答があった。回答率は 72.8%（2018 年度は 65.8%、2017 年度は 33.8%、2016 年度は 52.1%）であった。所属別の内訳は表 5 に示すとおりである。前年度から回答率が高くなった要因としては、合同教授会などにおいて全教員に周知徹底をはかったことが挙げられる。特に、新型コロナウイルスの影響で学位授与式後のホームルームが簡素化されたにも関わらず、回答率が上昇したことは、各部局の教員の促しが強く作用したと考えられる。

全学全体の評価結果の概要を概観すると、最も高得点は、IV-4 の「よき友と出会いましたか」（4.47 点）であり、例年と同様であった。次に高得点は、IV-3 の「頼りになる教員に出会えましたか」（4.30 点）、次に IV-1 の「キャンパスは清潔でしたか」（4.27 点）であった。このことから、卒業生は学生時代に良き友と教員に出会い、清潔な環境で大学生活を送っていたことを評価していることが推察される。

表 5 所属学部別アンケート回答状況

所属学部	卒業者数	回答者数	回答率(%)
人間生活学部	253	198	78.3
音楽学部	10	9	90.0
薬学部	132	90	68.2
文学部	48	36	75.0
理工学部	75	60	80.0
総合政策学部	71	44	62.0
香川薬学部	52	34	65.4
保健福祉学部	248	184	74.2
短期大学部	97	75	77.3
大学院等を含む大学全体	1020	743	72.8

一方、最も低い得点は、V-2 の「知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか」（3.60 点）であった。これは昨年度ワースト 3（昨年度 3.75 点）であった。教員や友だちとの出会いには満足しているにも関わらず、推薦しないという現状にはアンケートではわからないことがあると考えられる。2 番目に低い得点は、III-7 の「生

活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか」(3.66点)であった。これは前年度最も低い評価であった。3番目として、IV-2の「クラブやサークル活動は参加しやすかったですか」(3.70点)が続いている。これらの低得点項目は、入試広報委員会や保健管理センター、教務委員会など他委員会や組織体との連携によって改善に資するものと考えられる。このアンケートの結果については、「FD研究部会活動報告書」(冊子体)にまとめ、全教員に配付して周知しており、今後は、この結果をもとに、教職員が一丸となって学生の満足度が高くなるよう、各種関連委員会や組織体との連携強化が課題となる。

なお、資料編に、学部全体、短期大学部全体の数値とグラフも示しているのご高覧頂きたい。

### 6-3 改善計画(改善点)

#### (1) 質問項目の検討

このアンケートを始めた当初は、マークシートを利用して限られた時間内で回答させなければならないことから、質問項目はできるだけ少なく厳選した。しかしながら、近年のSNS等の普及に伴い、学生がスマートフォンなどの情報端末でアンケートに回答することに抵抗がなくなってきたと感じている。これを鑑みると、質問項目を少しだけ増やしても実施上の問題はないのではないかと思われる。本学の学生の満足度を高めるためのより具体的なヒントを得られるように、質問項目の追加を部会で検討したい。

#### (2) 大学生生活満足度アンケート結果を教育環境や教育改善に活かすシステム構築

これまで平成21年度～令和元年度に渡り、10年間卒業生に対する満足度アンケートを行い、その結果をもとに、改善計画(改善点)をたて、満足度評価の方法論やシステムについて改善を行ってきた。そのことにより、教育環境や教育活動が少しずつ改善されてきているが、まだ十分とはいえない。

多大な費用とエネルギーを費やし実施してきた満足度アンケートから、教育環境や教育改善に活かす事項が見出されたならば、その結果を活かすシステムの構築が課題となってくる。卒業生の満足度・不満足度を明らかにする単なるアンケートで終わっては意味がない。今後は、評価結果を活かして機能していくように、例えば、他委員会や組織体との情報共有や連携・協働など教育環境や教育改善に活かすシステム(仕組み)を構築していく時期にきている。

## 7. ICT利用による運営改善

### 7-1 現状

#### (1) 研修会・講演会のビデオ配信

本研究部会が主催する研修会・講演会は、毎年学内で開催されている。これらは教職員が参加しやすい日を選択して実施しているが、都合により参加できない教職員も少なからず存在する。また、講演内容を後日改めて確認したいという要望もある。

そこで、平成26年度から、講演者の許諾を得て研修会・講演会の様子をビデオ撮影

し、学内ネットワーク限定で教職員がその録画ビデオを学内のパソコンやスマートフォン等の情報端末から、都合の良いときにいつでも閲覧できるようにしている。令和元年度は、令和元年9月17日に徳島キャンパスで開催された関西大学の森朋子先生による「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」の内容を講師の許可を得て、ビデオに録画し、学内限定で閲覧できるようにした。

具体的な閲覧方法は、学内ネットワークに接続しているパソコンやスマートフォンに標準でインストールされているブラウザを開き、下記URLを入力すれば専用のサイトが表示される。

閲覧用URL <http://fd.bunri-u.ac.jp/videos/>

ビデオ配信は、原則として、講演会終了後約1週間から1年間ほど公開するよう部会で決められている。また、ビデオを再生するためには、教職員番号を入力するようにしている。

## (2) 全学授業アンケートの集計結果の公開

本学では全学的に学生による授業アンケートを実施している。今年度から各授業担当教員には、アンケートの集計結果に対する質問やコメント（以下、「教員コメント」という）の記入を依頼することにした。これまでの授業アンケートでは学生目線での授業評価であったが、さらに、担当した教員目線での授業に対する振返りをしてもらうような仕組みを構築した。これにより多角的な授業分析に基づく授業改善が実現できると思われる。

授業アンケートの回答期間が終了して1週間後に、学生は、履修登録した科目に対する学生によるアンケート結果（集計表）と担当教員の教員コメントを閲覧することができる。図4にそのサンプルを示す。学生は、履修登録した授業の集計結果しか閲覧できないようにしている。

教員は、担当授業の一覧とともに、学生が回答したアンケートの集計表を閲覧できるようにしている。また、同じ画面内に表示されているリンクをクリックすることで教員コメントの記入ができる。図5にそのサンプルを示す。また、本学の教職員は、本学で開講されたすべての授業の集計結果と教員コメントを学科別の一覧から閲覧できるようにもしている。図6に電子情報工学科のサンプルを示す。

## 7-2 点検・評価

ICTを利用してFD活動の一部を効率良く運用することを試みた。システム導入のための人的・経済的コストは低くはないが、一度導入すれば効率よくFD活動を支援できることがわかった。ただし、すべての活動にICTを導入するのが良いということではなく、大幅に作業手順が変わらないような定型処理への導入が有効である。全国的に大規模大学においてIR（Institutional Research）の導入が盛んである。本学もIR導入を見据えたFDや教育活動におけるICT利用を今後もより推し進める必要があると考えている。



[ ] さんの履修登録科目一覧				
科目名(回答識別コード)	開講曜時	担当教員名	集計結果	教員コメント
物理学 B [DOZ034]	火1	<複数担当か未登録>	表示可	未記入
情報処理 I [WFr004]	水1	小林 郁典	表示可	表示可
文理学 [zjY032]	土1	藤澤 正一郎	表示可	未記入
微分積分学 [yKa018]	月1/月2	中山 裕之	表示可	未記入
健康スポーツ B [mXh013]	火2	田子 孝仁	表示可	未記入
基礎情報処理 II [PbX023]	金2	山本 由和	表示可	未記入
システム工学 I [JHR045]	月3	河合 浩行	表示可	未記入
物理学 A [xvS036]	火3	竹本 恵一	表示可	表示可
英語 A ② [KSh015]	金3	中島 正太	表示可	未記入
確率統計学 [UFL021]	月4	妹尾 尚一郎	表示可	未記入
線形代数学 [skL048]	水3/水4	松田 和典	表示可	未記入
情報システム工学実験 II [Ike034]	木3/木4/木5	<複数担当か未登録>	表示可	表示可

徳島文理大学・全学FD研究部会

図4 授業アンケートの集計結果の公表（学生用画面）

2019年度 後期 [ ] 先生の担当科目一覧					
科目名	開講日	登録者数	回答者数	集計結果	教員コメント
情報処理 I	水1	43	36	表示	回答済
ソフトウェア工学 II	木2	29	26	表示	回答済
情報応用工学演習 B	金2	15	10	表示	回答済
情報応用工学 II	金4	30	30	表示	回答済
情報応用工学 III (プレ卒研)	土1	3	1	表示	回答済
卒業研究 B	土1	5	2	表示	回答済
システム制御工学演習	火1/火2	1	0	—	回答済
システム制御工学演習	火1/火2	1	0	—	回答済
システム制御特別研究	土1	0	0	—	—

徳島文理大学・全学FD研究部会

図5 授業アンケートの集計結果の公表（教員用画面）

2019年度前期 【理工学部電子情報工学科】					
ID	科目名	教員名	開講曜時	学生回答	教員コメント
60007ED01	基礎ゼミナールB/数学A	<複数担当か未登録>	月1/月2/金2	表示	表示
60016ED01	基礎ゼミナールB/数学A	<複数担当か未登録>	月1/月2/金2	表示	表示
60025ED01	基礎ゼミナールB/数学A	<複数担当か未登録>	月1/月2/金2	表示	未回答
60034ED01	基礎ゼミナールB/数学A	<複数担当か未登録>	月1/月2/金2	表示	表示
60040ED02	工業数学A/工業数学A演習	<複数担当か未登録>	水3/水4	表示	表示
60049ED02	工業数学B/工業数学B演習	<複数担当か未登録>	木3/木4	表示	表示
60053	1Q技術科教育法Ⅲ (火5・木4)	篠原 克彦	火5/木4	表示	表示
60061	電気基礎 [電気回路]	河田 淳治	月1	表示	表示
60066	ソフトウェア工学Ⅰ	小林 郁典	月2	表示	表示
60068	情報科教育法Ⅰ	野口 豊年	月4	—	未回答
60075	ネットワーク技術Ⅰ	山本 由和	火1	表示	表示
60076	制御理論Ⅰ	河合 浩行	火1	表示	表示
60077	健康スポーツA	田子 孝仁	火2	表示	表示
60079	英語C①	Elliot Fried-Boxt	火2	表示	表示

図6 授業アンケートの集計結果の公表

### 7-3 改善計画（改善点）

上記のような試みをより効果的なものにするには、本学教職員のICTスキルの向上が不可欠である。そのため、新任・昇任教員研修の中での実習や、講習会、勉強会を次年度の活動に組み入れるよう計画を進めている。

## 8. おわりに

本学のFD活動は令和2年度より、新たな時代に入る。各学部学科および各研究科は、令和2年度～令和6年度の担当部署別行動計画において、5年間の中期目標に基づき、各年度の行動計画を立て、毎年度、自己評価を行うことになった。

具体的には、全学における中期目標、「教育研究の質の向上」において、「教授方法の工夫改善」「学修成果の点検・評価」などの項目で、例えば、「国家資格を目指す学部・学科等において、国家試験の合格率を向上・維持」に関する年度ごとの計画を立てることになった。「大学運営組織の充実」における「入学定員の確保」の項目でも同様である。18歳人口減少の中、教職員全ての連携による「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」が今まで以上に求められている。

周知のように、FD研究部会では、平成19年12月の発足より、学生のより深い学びを促進するため、様々な授業改善活動の取り組みを推進・支援してきた。その中で、懸

案事項であった「卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート」と「全学授業アンケート」のWeb化は、令和元年度までに試行を終え、完全実施となった。教員のフィードバックである授業についての教員のコメント回答率を100%にすることも含め、まだまだ課題は残されているが、データの蓄積によって、本学のFDの企画・運営は、より客観的で、中長期の展望も可能なものになると期待できる。

本年度の活動に対する皆様のご尽力とご理解に感謝と敬意を申し上げますとともに、次年度以降も、IRの推進等を中心としたSD活動と連携し、より幅広いFD活動を進められるよう、教職員各位の一層のご理解・ご支援をお願いする次第である。

# 資料編目次

1	要綱・内規	
1-1	徳島文理大学教育開発機構設置要綱	1
1-2	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D研究部会内規	2
2	F D研究部会 部員名簿・会議一覧	
2-1	令和元(2019)年度 F D研究部会部員名簿	3
2-2	令和元(2019)年度 F D研究部会会議一覧	4
2-3	令和元(2019)年度 F D研究部会議事録【別CD資料】	
3	研修会	
3-1	令和元(2019)年度 F D研修会	5
3-2	令和元(2019)年度 新任・昇任教員研修会	6
3-3	令和元(2019)年度 学外研修会等参加者一覧	7
3-4	令和元(2019)年度 研修会プログラム及びアンケート【別CD資料】	
4	全学授業アンケート	
4-1	令和元(2019)年度 全学授業アンケート	10
4-2	令和元(2019)年度 前期・大学全体 集計結果	11
4-3	令和元(2019)年度 前期・学部・大学院全体 集計結果	12
4-4	令和元(2019)年度 前期・短期大学部全体 集計結果	13
4-5	令和元(2019)年度 前期・教員コメント全体 集計結果	14
4-6	令和元(2019)年度 後期・大学全体 集計結果	15
4-7	令和元(2019)年度 後期・学部・大学院全体 集計結果	16
4-8	令和元(2019)年度 後期・短期大学部全体 集計結果	17
4-9	令和元(2019)年度 後期・教員コメント全体 集計結果	18
4-10	アンケートの内容	19
4-11	教員コメントの内容	20
5	研究授業	
5-1	令和元(2019)年度 前期 研究授業一覧	21
5-2	令和元(2019)年度 後期 研究授業一覧	22
5-3	研究授業(教員相互の授業参観)記録様式	23
5-4	研究授業(目標設定型)記録様式	24
5-5	令和元(2019)年度 研究授業の記録【別CD資料】	
6	卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート	
6-1	令和元(2019)年度 卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート	25
6-2	令和元(2019)年度 大学全体 集計結果	26
6-3	令和元(2019)年度 大学院・専攻科・学部全体 集計結果	27
6-4	令和元(2019)年度 短期大学部全体 集計結果	28
6-5	アンケートの内容	29
6-6	令和元(2019)年度 学部別集計結果データ【別CD資料】	
7	用語解説	
7-1	用語解説	30

## 徳島文理大学教育開発機構設置要綱

### (設置・目的)

第1条 全学的な教育改革を実現するため、当面する教育上の諸課題又は学長からの諮問事項を研究協議し、徳島文理大学（以下「本学」という。）の一層の教育力の向上を図ることを目的として、本学に学長直属の教育開発機構（以下「機構」という。）を設置する。

### (組織)

第2条 機構に、次に掲げる委員会及び部会を置く。

- (1) 全学教務委員会
- (2) 入試制度検討部会（入学前教育を含む。）
- (3) 全学共通教育研究部会
- (4) FD研究部会

2 機構の代表責任者は、副学長とする。

### (委員会及び部会の構成)

第3条 委員会及び各部会は、それぞれ各学部及び関係する事務部門から推薦された委員又は部会員で構成する。ただし、学長が特に必要と認めた者を加えることができる。

### (委員長及び部会長)

第4条 委員会及び各部会に、それぞれ委員長又は部会長を置く。

- 2 委員長及び部会長は、学長が任命する。
- 3 委員長及び部会長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員長又は部会長がやむを得ない事由により退任する場合は、学長に申し出て、その承認を受けなければならない。

### (委員及び部会員)

第5条 委員及び部会員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

### (委員会及び部会)

第6条 委員長及び部会長は、必要に応じ、それぞれ委員会又は部会を招集するものとする。

- 2 委員会又は各部会の議長は、委員長又は各部会長がこれに充たる。
- 3 委員長又は各部会長に事故あるとき、若しくは欠けた場合は、あらかじめ委員長又は各部会長が指名した者が議長となる。
- 4 委員及び部会員がやむを得ない事由により欠席する場合は、代理出席を認めるものとする。

### (事務局)

第7条 機構の事務は、徳島キャンパス教務部が処理するものとする。

### (補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、学長が別に定める。

### 附 則

- 1 この要綱は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 「徳島文理大学教育開発機構設置要綱」（平成19年10月30日施行）は、廃止する。

## 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部 F D 研究部会内規

### (設 置)

第1条 徳島文理大学教育開発機構設置要綱に基づき、F D 研究部会を設置する。

### (目 的)

第2条 F Dとは「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」(大学設置基準第二十五条の三)を指すものであり、F D 研究部会は、全学的なF D活動を推進及び支援し、教育の質の向上を図ることを目的とする。

### (調査研究事項)

第3条 F D 研究部会は、次に掲げる事項を調査研究する。

- 1 F D活動に関する情報収集と提供
- 2 F D活動の企画・立案
- 3 F D活動実施計画の立案・実施
- 4 F D活動の評価
- 5 その他、F D 研究部会が必要と認めた事項

### (組 織)

第4条 F D 研究部会は、次の委員をもって構成する。

- 1 部会長 1名
- 2 副部会長 2名 (徳島キャンパス1名、香川キャンパス1名)
- 3 部員 各学部より1名、教育研究支援課より若干名

第5条 部会長・副部会長及び部員の選任

- 1 部会長・副部会長は学長が任命する。
- 2 部員は各学部長及び教務部長が学長に推薦し、学長が任命する。

第6条 部会長及び部員の退任

- 1 部会長・副部会長は、諸事情により退任する場合は学長に申し出なければならない。
- 2 部員は、諸事情により退任する場合は各学部長あるいは教務部長に申し出なければならない。

### (会 議)

第7条 部会の開催

- 1 部会長は、原則として毎月1回部会を開催し、これを主宰する。
- 2 部員は、部会長の招集に応じ部会に出席しなければならない。やむを得ない事情により欠席する場合は、代理の出席者を立てなければならない。

### (任 期)

第8条 部会長、副部会長及び部員の任期は原則2か年とし、再任を妨げない。

### (事務局)

第9条 F D 研究部会の事務は、教育研究支援課が担当する。

### 附 則

- 1 本内規は、平成19年12月13日から施行する。
- 2 本内規は、平成20年12月2日から一部改正施行する。
- 3 本内規は、平成26年4月1日から一部改正施行する。
- 4 本内規は、平成30年4月1日から一部改正施行する。

## 令和元(2019)年度 F D研究部会部員名簿

	氏 名	所 属
副 学 長	吉田 憲一	
部 会 長	青野 透	総合政策学部
副部長	小林 郁典	理工学部
〃	千葉さやか	音楽学部
部 員	張 功幸	薬学部
〃	笠井 敬正	人間生活学部
〃	佐原 玉恵	保健福祉学部(徳島キャンパス)
〃	橋本 誠志	総合政策学部
〃	佐賀 啓子	短期大学部
〃	加藤 善久	香川薬学部
〃	上田 雅彦	保健福祉学部(香川キャンパス)
〃	中条 義輝	文学部
事 務 局	井上 薫	教育研究支援課(徳島キャンパス)
〃	橋本志保(4/1～10/1) 藤本浩美(10/1～3/31)	〃
〃	竹本 恵一	教育研究支援課(香川キャンパス)

## 令和元(2019)年度 FD研究部会会議一覧

回数	日時	会場
第109回FD研究部会	平成31年4月18日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第110回FD研究部会	令和元年5月23日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第111回FD研究部会	令和元年6月20日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第112回FD研究部会	令和元年7月18日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第113回FD研究部会	令和元年9月19日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第114回FD研究部会	令和元年10月24日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第115回FD研究部会	令和元年11月21日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第116回FD研究部会	令和2年1月23日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)
第117回FD研究部会	令和2年2月27日(木) 16:30~17:30	徳島キャンパス:25号館4階スタジオ型講義室 香川キャンパス:図書館3階AVホール (テレビ会議)



## 令和元(2019)年度 F D 研修会

## ①第1回FD研修会(SPOD内講師派遣プログラム)

- ・日 時：徳島キャンパス 9月2日(月) 13:30~15:00  
香川キャンパス 9月3日(火) 10:30~12:00
- ・演 題：アクティブラーニング実践(だれでもできる!グループワークのためのファシリテーション)
- ・講 師：仲道 雅輝(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師)
- ・会 場：徳島キャンパス 2号館2階アカンサススタジオ  
香川キャンパス 図書館3階AVホール
- ・受講者：徳島キャンパス 27名、香川キャンパス 16名 合計43名  
※第2回新任・昇任教員研修会を兼ねる。

## ②第2回FD研修会(FD対象)(SPOD遠隔配信)

- ・日 時：9月10日(火) 10:00~12:00
- ・演 題：「大人教講義法の基本」
- ・講 師：小林 直人(愛媛大学 学長特別補佐 教育企画室長)
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室(遠隔配信)  
香川キャンパス 図書館3階AVホール(遠隔配信)
- ・受講者：徳島キャンパス 16名、香川キャンパス 5名 合計21名  
※第3回新任・昇任教員研修会を兼ねる。

## ③第3回FD研修会

- ・日 時：9月12日(木) 15:00~16:30
- ・演 題：「学習支援システム Google Classroom を利用した授業体験」
- ・講 師：小林 郁典(本学理工学部 准教授)、松田・松井(本学情報センター)
- ・会 場：徳島キャンパス 総合政策学部PC教室
- ・受講者：徳島キャンパス 20名、香川キャンパス 1名 合計21名

## ④第4回FD研修会(全学FD研修会)

- ・日 時：9月17日(火) 合同教授会終了後 16:00~17:00  
※講演内容に関する質疑を中心とした情報交換会 17:20~18:00
- ・演 題：「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」
- ・講 師：森 朋子(関西大学 教育推進部 教授)
- ・会 場：主会場 徳島キャンパス 2号館アカンサスホール  
(情報交換会 2号館アカンサススタジオ)  
副会場 香川キャンパス 図書館3階AVホール(遠隔配信)
- ・受講者：徳島キャンパス 205名、香川キャンパス 96名 合計301名  
※研修会内容はFD研究部会のサーバーに収録。欠席者はサーバより視聴し、感想を提出。  
徳島キャンパス 欠席者59名 アンケート提出者35名 未提出者24名  
香川キャンパス 欠席者22名 アンケート提出者15名 未提出者 7名  
※第4回新任・昇任教員研修会を兼ねる。

## 令和元(2019)年度 新任・昇任教員研修会

(対 象) 新任教員、昇任教員

昇任教員は、助教・講師に昇任された先生で、これまで研修を未受講の先生

(対象者数) 21名

(研修回数) 4回(第2回～第4回の研修会は、FD研修会と同時開催)

## ①第1回新任・昇任教員研修会

- ・日 時：5月18日(土) 10:00～14:30
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館 4階 スタジオ型講義室
- ・プログラム：
  - 10:00～10:20 田村 禎通 学長  
「本学の教育について」
  - 10:20～10:40 青野 透 部会長  
「本学の学生の状況とFD活動について」
  - 10:40～11:20 小林 郁典(理工学部准教授) 松田 和也・松井 康(情報センター職員)  
「これからの高等教育と授業に役立つヒント」
  - 11:20～12:00 宮原 和沙(保健福祉学部講師)  
「初任者教員研修で学んだことー授業デザインから始めるー」
  - 12:00～13:00 「学長と新任・昇任教員との意見交換会」
  - 13:00～14:30 宮原 和沙(保健福祉学部講師)  
「アクティブラーニング型授業を体験してみよう」

## ②第2回新任・昇任教員研修会

- ・日 時：徳島キャンパス 9月2日(月) 13:30～15:00  
香川キャンパス 9月3日(火) 10:30～12:00
- ・演 題：アクティブラーニング実践(だれでもできる!グループワークのためのファシリテーション)
- ・講 師：仲道 雅輝(愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 講師)
- ・会 場：徳島キャンパス 2号館2階アカンサススタジオ  
香川キャンパス 図書館3階AVホール

## ③第3回新任・昇任教員研修会

- ・日 時：9月10日(火) 10:00～12:00
- ・演 題：「大人数講義法の基本」
- ・講 師：小林 直人(愛媛大学 学長特別補佐 教育企画室長)
- ・会 場：徳島キャンパス 25号館4階スタジオ型講義室(遠隔配信)  
香川キャンパス 図書館3階AVホール(遠隔配信)

## ④第4回新任・昇任教員研修会

- ・日 時：9月17日(火) 合同教授会終了後 16:00～17:00
- ・演 題：「『分かった』を引き出すアクティブラーニング」
- ・講 師：森 朋子(関西大学 教育推進部 教授)
- ・会 場：主会場 徳島キャンパス 2号館アカンサスホール  
(情報交換会 2号館アカンサススタジオ)  
副会場 香川キャンパス 図書館3階AVホール(遠隔配信)

## 令和元(2019)年度 学外研修会等参加者一覧

## ①SPOD研修会・フォーラム等参加

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
令和元年 5月22日(水) ～24日(金)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第1回)	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 学生部 原 里沙 (香川キャンパス) 総務部 半田 加奈
令和元年 6月27日(木) ～28日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅡ)	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 就職支援部 福井 朗人 (香川キャンパス) 教務部 鞍田 典昭
令和元年 7月19日(金) ～20日(土)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第2回)	SPOD	徳島文理大学	(徳島キャンパス) 学生部 原 里沙 (香川キャンパス) 総務部 半田 加奈
令和元年 7月19日(金)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第2回) 開放講義 「あなたの仕事、見直しませんか? ～業務の見える化入門～」	SPOD	徳島文理大学	(徳島キャンパス) 保健福祉学部 宮原 和沙 総務部 正村 崇 宮田 佳菜 田村 友莉香 入試広報部 新田 早織 板東 真也 山崎 実希 情報センター 松井 康 山地 健斗 教務部 増本佐優美 橋本 実佳 (香川キャンパス) 学生部 鎌倉 法子 (学園本部) 総務部 増井 貴俊
令和元年 7月20日(土)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第2回) 開放講義 「高等教育におけるIR」 「高等教育政策論」	SPOD	徳島文理大学	(徳島キャンパス) 保健福祉学部 宮原 和沙 総務部 佐々木 尊

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
令和元年 7月20日(土)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第2回) 開放講義 「高等教育におけるIR」 「高等教育政策論」	SPOD	徳島文理大学	教務部 井上 薫 (学園本部) 総務部 増井 貴俊
令和元年 8月28日(水) ～30日(金)	SPODフォーラム2019	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 総合政策学部 松村 豊大 保健福祉学部 上田伊佐子 学生部 武市 久恵 原 里沙 教務部 藤本 正己 (香川キャンパス) 理工学部 小林 郁典 学生部 福田 トモコ 田中 裕子 鍋浦 久美 蔵本 賀織 教務部 後藤田達也 図書館 和田 裕子
令和元年 9月25日(木) ～27日(金)	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅢ)	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 総務部 東條 幸枝 地域連携センター 藤巻 晃
令和元年 10月24日(木) ～26日(土)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第3回)	SPOD	高知大学	(徳島キャンパス) 学生部 原 里沙 (香川キャンパス) 総務部 半田 加奈
令和元年 11月7日(木) ～8日(金)	令和元年度 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修(レベルⅠ)	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 講師として 教務部 藤本 正己 (香川キャンパス) 教務部 鞍田 典昭 松下 宗孝 蔵本 賀織
令和元年 12月5日(木)	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	SPOD 愛媛大学	e-ラーニング 受講	(徳島キャンパス) 短期大学部 佐賀 啓子

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
令和元年 1月6日(月) ～7日(火)	1月FDスキルアップ講座	SPOD 香川大学	香川大学	(徳島キャンパス) 保健福祉学部 田村 幸子
令和2年 1月23日(木) ～24日(金)	令和元年度 次世代養成ゼミナール(第4回)	SPOD	愛媛大学	(徳島キャンパス) 学生部 原 里沙 (香川キャンパス) 総務部 半田 加奈

## ②SPOD会議参加一覧表

開催日	名称	主催者	開催場所	参加者
令和元年 10月30日(水)	第1回T-SPOD会議	SPOD 徳島大学	徳島大学	(徳島キャンパス) 総務部 佐々木 尊 教務部 井上 薫
令和2年 3月27日(金) (書面による会 議に変更)	令和元年度 「四国地区大学教育能力開発ネッ トワーク」 総会及びFD/SD分科会	SPOD	愛媛大学 (中止)	学長 田村 禎通 (徳島キャンパス) 総合政策学部 青野 透 総務部 佐々木 尊

## 令和元(2019)年度 全学授業アンケート

アンケート 実施期間	<p>(前期) 令和元年 7月16日(火) ～ 8月 5日(月)</p> <p>(後期) 令和 2年 1月 8日(水) ～ 2月10日(月)</p>
アンケート 回答率	<p>(前期) 回答率 67.1% 対象数 47,473      回答数 31,831</p> <p>(後期) 回答率 61.8% 対象数 45,422      回答数 28,077</p>
教員コメント 記入期間	<p>(前期) 令和元年 8月 9日(金) ～ 9月19日(木)</p> <p>(後期) 令和 2年 2月14日(金) ～ 3月19日(木)</p>
教員コメント 回答率	<p>(前期) 回答率 68.8% 対象数 2,134      回答数 1,469</p> <p>(後期) 回答率 76.9% 対象数 2,135      回答数 1,641</p>
アンケート結果 教員コメント 公開期間	<p>(前期) 令和元年 11月 5日(火) から1年間</p> <p>(後期) 令和 2年 3月 20日(金) から1年間</p>

## 4-2 (前期：大学全体)

### 2019年度前期 授業アンケート集計結果 (全体) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	31,831	有効回答数	31,193
47,473	回答率	67.05%	有効回答率	98.0%

#### 1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	9,198	0.29	2.91
部分的に読んだ(3点)	13,270	0.43	
ほとんど読まなかった(2点)	5,596	0.18	
まったく読まなかった(1点)	3,129	0.10	

#### 2. 受講する前 (学期はじめ)、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	9,388	0.30	3.09
どちらかというに興味があった(3点)	16,150	0.52	
どちらかというに興味がなかった(2点)	4,695	0.15	
まったく興味なかった(1点)	960	0.03	

#### 3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	14,004	0.45	3.29
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	13,133	0.42	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	3,295	0.11	
わかりにくい内容であった(1点)	761	0.02	

#### 5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	26,092	83.65
自立性	9,113	29.21
協同性	8,091	25.94
考え抜く力	10,976	35.19
交渉力	5,277	16.92
発信力	3,954	12.68

#### 6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	19,452	62.36
授業の進め方	16,434	52.68
教科書・パワーポイントなどの資料	12,490	40.04
課題や宿題の内容 (量も含む)	7,704	24.70
教室の設備	7,985	25.60

#### 7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	10,151	0.33	3.08
良(3点)	13,708	0.44	
可(2点)	6,923	0.22	
不可(1点)	411	0.01	

#### 8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	14,702	0.47	3.38
どちらかという満足(3点)	14,250	0.46	
どちらかという不満足(2点)	1,760	0.06	
不満足(1点)	481	0.02	

#### 4-3 (前期：学部・大学院全体)

##### 2019年度前期 授業アンケート集計結果 (学部・大学院) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	29,913	有効回答数	29,345
44,579	回答率	67.10%	有効回答率	98.1%

##### 1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	8,810	0.30	2.93
部分的に読んだ(3点)	12,474	0.43	
ほとんど読まなかった(2点)	5,190	0.18	
まったく読まなかった(1点)	2,871	0.10	

##### 2. 受講する前 (学期はじめ)、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	8,842	0.30	3.09
どちらかというに興味があった(3点)	15,217	0.52	
どちらかというに興味がなかった(2点)	4,405	0.15	
まったく興味がなかった(1点)	881	0.03	

##### 3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	13,115	0.45	3.29
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	12,358	0.42	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	3,151	0.11	
わかりにくい内容であった(1点)	721	0.02	

##### 5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	24,569	83.72
自立性	8,553	29.15
協同性	7,604	25.91
考え抜く力	10,316	35.15
交渉力	4,892	16.67
発信力	3,635	12.39

##### 6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	18,158	61.88
授業の進め方	15,373	52.39
教科書・パワーポイントなどの資料	11,831	40.32
課題や宿題の内容 (量も含む)	7,239	24.67
教室の設備	7,399	25.21

##### 7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	9,514	0.32	3.08
良(3点)	12,959	0.44	
可(2点)	6,495	0.22	
不可(1点)	377	0.01	

##### 8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	13,766	0.47	3.38
どちらかという満足(3点)	13,427	0.46	
どちらかという不満足(2点)	1,693	0.06	
不満足(1点)	459	0.02	



#### 4-4 (前期：短期大学部全体)

##### 2019年度前期 授業アンケート集計結果 (短期学部) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	1,918	有効回答数	1,848
2,894	回答率	66.28%	有効回答率	96.4%

##### 1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか

設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	388	0.21	2.71
部分的に読んだ(3点)	796	0.43	
ほとんど読まなかった(2点)	406	0.22	
まったく読まなかった(1点)	258	0.14	

##### 2. 受講する前 (学期はじめ)、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか

設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	546	0.30	3.05
どちらかというに興味があった(3点)	933	0.50	
どちらかというに興味がなかった(2点)	290	0.16	
まったく興味がなかった(1点)	79	0.04	

##### 3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか

設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	889	0.48	3.36
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	775	0.42	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	144	0.08	
わかりにくい内容であった(1点)	40	0.02	

##### 5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	1,523	82.41
自立性	560	30.30
協同性	487	26.35
考え抜く力	660	35.71
交渉力	385	20.83
発信力	319	17.26

##### 6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください

設問	回答数	選択率(%)
説明内容	1,294	70.02
授業の進め方	1,061	57.41
教科書・パワーポイントなどの資料	659	35.66
課題や宿題の内容 (量も含む)	465	25.16
教室の設備	586	31.71

##### 7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	637	0.34	3.08
良(3点)	749	0.41	
可(2点)	428	0.23	
不可(1点)	34	0.02	

##### 8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか

設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	936	0.51	3.45
どちらかという満足(3点)	823	0.45	
どちらかという不満足(2点)	67	0.04	
不満足(1点)	22	0.01	

#### 4-5（前期：教員コメント全体）

2019年度 前期 授業アンケートに対する教員コメント（全体） 徳島文理大学

対象数（教員の担当科目数の総和）	2,134	回答数	1,469	回答率	68.8%
------------------	-------	-----	-------	-----	-------

1. 授業内容について			
設問	回答数	比率	加重平均
受講生にとっては難しいと感じた [1]	238	0.16	0.14
受講生にとっては適切であると感じた [0]	1,203	0.82	
受講生にとっては易しいと感じた [-1]	28	0.02	

2. 受講生の学習態度について			
設問	回答数	比率	加重平均
期待通りに学習していた [4]	553	0.38	3.28
どちらかといえば期待通りに学習していた [3]	785	0.53	
どちらかといえば期待した学習をしていなかった [2]	118	0.08	
期待した学習をしていなかった [1]	13	0.01	

3. 到達目標のクラス全体の達成度について			
設問	回答数	比率	加重平均
ほとんどの受講生が達成したと思う（80%以上） [4]	688	0.47	3.41
半分以上の受講生が達成したと思う（50～80%程度） [3]	697	0.47	
達成した受講生は比較的少ないと思う（30～50%程度） [2]	78	0.05	
達成した受講生はほとんどいないと思う（30%以下） [1]	6	0.00	

4. 前年度と比べて改善あるいは工夫された項目（複数選択可）		
設問	回答数	選択率(%)
使用した教材（教科書や資料など）	701	47.72
教え方（授業の進め方や話し方など）	917	62.42
課外学習の内容	275	18.72
評価方法	295	20.08
今回が初めての担当であった（判断できない）	217	14.77

5. 利用した教授法（複数選択可）		
設問	回答数	選択率(%)
次回の授業の紹介（次回の学習の動機づけ、予習など）	561	38.19
各回の授業のふりかえり（宿題、学習を強化するもの）	753	51.26
50%以上の受講生が授業中に発表する機会	418	28.45
受講生同士の交流（議論や教えあい、グループワーク）	560	38.12
情報通信技術の利用（オフィスソフト、学習管理システム）	512	34.85
定期試験以外の学習評価	606	41.25
その他（特徴的なもの）	208	14.16

4-6 (後期：大学全体)

2019年度後期 授業アンケート集計結果 (全体) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	28,077	有効回答数	27,718
45,422	回答率	61.81%	有効回答率	98.7%

1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか				
設問	回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)	9,397	0.34	2.98	
部分的に読んだ(3点)	11,083	0.40		
ほとんど読まなかった(2点)	4,566	0.16		
まったく読まなかった(1点)	2,672	0.10		

2. 受講する前 (学期はじめ) 、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか				
設問	回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)	9,526	0.34	3.18	
どちらかというに興味があった(3点)	14,342	0.52		
どちらかというに興味がなかった(2点)	3,167	0.11		
まったく興味がなかった(1点)	683	0.02		

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか				
設問	回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)	13,712	0.49	3.37	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	11,065	0.40		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	2,370	0.09		
わかりにくい内容であった(1点)	571	0.02		

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	24,059	86.80
自立性	8,967	32.35
協同性	7,439	26.84
考え抜く力	10,007	36.10
交渉力	4,790	17.28
発信力	3,652	13.18

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
説明内容	18,294	66.00
授業の進め方	15,197	54.83
教科書・パワーポイントなどの資料	11,534	41.61
課題や宿題の内容 (量も含む)	7,593	27.39
教室の設備	7,897	28.49

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか				
設問	回答数	比率	加重平均	
優(4点)	10,337	0.37	3.15	
良(3点)	11,471	0.41		
可(2点)	5,655	0.20		
不可(1点)	255	0.01		

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか				
設問	回答数	比率	加重平均	
満足(4点)	14,399	0.52	3.44	
どちらかという満足(3点)	11,528	0.42		
どちらかという不満足(2点)	1,425	0.05		
不満足(1点)	366	0.01		

## 4-7 (後期：学部・大学院全体)

## 2019年度後期 授業アンケート集計結果 (学部・大学院) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	26,419	有効回答数	26,095
42,957	回答率	61.50%	有効回答率	98.8%

1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか				
設問	回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)	8,950	0.34	2.99	
部分的に読んだ(3点)	10,444	0.40		
ほとんど読まなかった(2点)	4,213	0.16		
まったく読まなかった(1点)	2,488	0.10		

2. 受講する前 (学期はじめ) 、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか				
設問	回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)	8,956	0.34	3.18	
どちらかというに興味があった(3点)	13,491	0.52		
どちらかというに興味がなかった(2点)	2,999	0.11		
まったく興味がなかった(1点)	649	0.02		

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか				
設問	回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)	12,878	0.49	3.36	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	10,381	0.40		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	2,285	0.09		
わかりにくい内容であった(1点)	551	0.02		

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください			
設問	回答数	選択率(%)	
専門的な知識・技能	22,666	86.86	
自立性	8,462	32.43	
協同性	6,991	26.79	
考え抜く力	9,414	36.08	
交渉力	4,496	17.23	
発信力	3,363	12.89	

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください			
設問	回答数	選択率(%)	
説明内容	17,133	65.66	
授業の進め方	14,245	54.59	
教科書・パワーポイントなどの資料	10,919	41.84	
課題や宿題の内容 (量も含む)	7,184	27.53	
教室の設備	7,333	28.10	

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか				
設問	回答数	比率	加重平均	
優(4点)	9,719	0.37	3.15	
良(3点)	10,871	0.42		
可(2点)	5,258	0.20		
不可(1点)	247	0.01		

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか				
設問	回答数	比率	加重平均	
満足(4点)	13,477	0.52	3.44	
どちらかという満足(3点)	10,888	0.42		
どちらかという不満足(2点)	1,369	0.05		
不満足(1点)	361	0.01		

#### 4-8 (後期・短期大学部全体)

#### 2019年度後期 授業アンケート集計結果 (短期学部) 徳島文理大学

対象数 (学生の履修登録数の総和)	回答数	1,658	有効回答数	1,623
2,465	回答率	67.26%	有効回答率	97.9%

1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
全体的に読んだ(4点)	447	0.28	2.83
部分的に読んだ(3点)	639	0.39	
ほとんど読まなかった(2点)	353	0.22	
まったく読まなかった(1点)	184	0.11	

2. 受講する前 (学期はじめ)、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか			
設問	回答数	比率	加重平均
とても興味があった(4点)	570	0.35	3.21
どちらかというに興味があった(3点)	851	0.52	
どちらかというに興味がなかった(2点)	168	0.10	
まったく興味がなかった(1点)	34	0.02	

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか			
設問	回答数	比率	加重平均
わかりやすい内容であった(4点)	834	0.51	3.44
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)	684	0.42	
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)	85	0.05	
わかりにくい内容であった(1点)	20	0.01	

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
専門的な知識・技能	1,393	85.83
自立性	505	31.12
協同性	448	27.60
考え抜く力	593	36.54
交渉力	294	18.11
発信力	289	17.81

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください		
設問	回答数	選択率(%)
説明内容	1,161	71.53
授業の進め方	952	58.66
教科書・パワーポイントなどの資料	615	37.89
課題や宿題の内容 (量も含む)	409	25.20
教室の設備	564	34.75

7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
優(4点)	618	0.38	3.13
良(3点)	600	0.37	
可(2点)	397	0.24	
不可(1点)	8	0.00	

8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか			
設問	回答数	比率	加重平均
満足(4点)	922	0.57	3.53
どちらかという満足(3点)	640	0.39	
どちらかという不満足(2点)	56	0.03	
不満足(1点)	5	0.00	

#### 4-9 (後期：教員コメント全体)

2019年度 後期 授業アンケートに対する教員コメント (全体) 徳島文理大学

対象数 (教員の担当科目数の総和)	2,135	回答数	1,641	回答率	76.9%
-------------------	-------	-----	-------	-----	-------

1. 授業内容について			
設問	回答数	比率	加重平均
受講生にとっては難しいと感じた [1]	201	0.12	0.10
受講生にとっては適切であると感じた [0]	1,232	0.75	
受講生にとっては易しいと感じた [-1]	36	0.02	

2. 受講生の学習態度について			
設問	回答数	比率	加重平均
期待通りに学習していた [4]	650	0.40	3.00
どちらかといえば期待通りに学習していた [3]	691	0.42	
どちらかといえば期待した学習をしていなかった [2]	123	0.07	
期待した学習をしていなかった [1]	5	0.00	

3. 到達目標のクラス全体の達成度について			
設問	回答数	比率	加重平均
ほとんどの受講生が達成したと思う (80%以上) [4]	816	0.50	3.13
半分以上の受講生が達成したと思う (50~80%程度) [3]	573	0.35	
達成した受講生は比較的少ないと思う (30~50%程度) [2]	77	0.05	
達成した受講生はほとんどいないと思う (30%以下) [1]	3	0.00	

4. 前年度と比べて改善あるいは工夫された項目 (複数選択可)		
設問	回答数	選択率 (%)
使用した教材 (教科書や資料など)	765	46.62
教え方 (授業の進め方や話し方など)	956	58.26
課外学習の内容	355	21.63
評価方法	315	19.20
今回がはじめての担当であった (判断できない)	195	11.88

5. 利用した教授法 (複数選択可)		
設問	回答数	選択率 (%)
次回の授業の紹介 (次回の学習の動機づけ、予習など)	654	39.85
各回の授業のふりかえり (宿題、学習を強化するもの)	776	47.29
50%以上の受講生が授業中に発表する機会	469	28.58
受講生同士の交流 (議論や教えあい、グループワーク)	663	40.40
情報通信技術の利用 (オフィスソフト、学習管理システム)	545	33.21
定期試験以外の学習評価	545	33.21
その他 (特徴的なもの)	172	10.48

## 4-10 (アンケートの内容)

科目名 [○○○○] のアンケート

[■■■ ■■■] さんログイン中  
[ログアウト](#)

1. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか (ひとつ選択) 【必須】

- 全体的に読んだ
- 部分的に読んだ
- ほとんど読まなかった
- まったく読まなかった

2. 受講する前 (学期はじめ) に、あなたはこの授業に興味 (学習意欲) がありましたか (ひとつ選択) 【必須】

- とても興味があった
- どちらかという興味があった
- どちらかという興味がなかった
- まったく興味なかった

3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか (ひとつ選択) 【必須】

- わかりやすい内容であった
- どちらかというわかりやすい内容であった
- どちらかというわかりにくい内容であった
- わかりにくい内容であった

4. この授業で記憶 (印象)に残ったキーワードを5つ挙げてください (各20文字以内) 【3つ必須】

1/5

2/5

3/5

4/5

5/5

5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください。選択肢以外のものがあればその他に記入してください (複数選択可)

- 専門的な知識・技能
  - 自立性 (自分で課題や疑問を解決する力、前に踏み出す力、自己管理能力)
  - 協同性 (仲間との協調性、チームで取組む能力)
  - 考え抜く力 (問題解決力)
  - 交渉力 (コミュニケーションスキル)
  - 発信力 (プレゼンテーション能力、表現力、情報収集力)
- その他  (20文字以内)

6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください。選択肢以外のものがあればその他に記入してください (複数選択可)

- 説明内容 (わかりやすい説明など)
  - 授業の進め方 (時間配分など)
  - 教科書・パワーポイントなどの教材・資料
  - 課題や宿題の内容 (量も含む)
  - 学習環境 (教室の設備など)
- その他  (20文字以内)

7. この授業での学習活動を振り返ってください。あなたがあなた自身を評価した場合、最終成績 (スコア) はどれだと思いますか (ひとつ選択) 【必須】

- 優 (80~100点)
- 良 (70~79点)
- 可 (60~69点)
- 不可 (60点未満)

8. 総合的にみて、この授業のあなたの自身の満足度はどれだと思いますか (ひとつ選択) 【必須】

- 満足
- どちらかという満足
- どちらかという不満足
- 不満足

9. この授業について、要望・意見・改善点・感想などを記入してください (1000字以内)

## 4-11 (教員コメントの内容)

科目名 | ○○○○○○ の教員フィードバック

[文理太郎] 先生ログイン中  
ログアウト

1. 授業内容についてお尋ねします。次のうち該当するものを選択してください (ひとつ選択) [必須]

- 受講生にとっては難しいと感じた
- 受講生にとっては適切であると感じた
- 受講生にとっては易しいと感じた

2. 受講生の学習態度についてお尋ねします。次のうち該当するものを選択してください (ひとつ選択) [必須]

- 受講生は期待通りに学習していた
- 受講生はどちらかといえば期待通りに学習していた
- 受講生はどちらかといえば期待した学習をしていなかった
- 受講生は期待した学習をしていなかった

3. 到達目標のクラス全体の達成度についてお尋ねします。次のうち該当するものを選択してください (ひとつ選択) [必須]

- ほとんどの受講生が達成したと思う (80%以上)
- 半分以上の受講生が達成したと思う (50%~80%程度)
- 達成した受講生は比較的少ないと思う (30%~50%程度)
- 達成した受講生はほとんどいないと思う (30%以下)

4. 次のうち前年度と比べて改善あるいは工夫された項目があればすべて選択してください (複数選択可)

- 使用した教材 (教科書や資料など)
- 教え方 (授業の進め方や話し方など)
- 課外学習の内容
- 評価方法
- 今回がはじめての担当であった (判断できない)

5. 利用した教授法についてお尋ねします。次のうちこの授業で利用されたものがあればすべて選択してください (複数選択可)

- 次回の授業の紹介 (次回の学習の動機づけになるもの、予習など)
- 各回の授業のふりかえり (宿題やミニツツペーパーなど学習を強化するもの)
- 50%以上の受講生が授業中に発表する機会
- 受講生同士の交流 (議論や教えあい、グループワークなど)
- 情報通信技術の利用 (パワーポイントなどのオフィスソフト、学習管理システムなど)
- 定期試験以外の学習評価

その他 (特徴的なもの)  (20文字以内)

6. アンケート結果に対する、または受講生に対するコメントをお書きください (1000字以内)

7. この授業をより良いものにするために必要なことをお書きください (1000字以内)

8. この授業の教え方に関する相談をご希望の方はチェックを入れてください (ひとつ選択) [必須]

- 相談を希望する
- 相談を希望しない



## 令和元(2019)年度 前期 研究授業一覧

## 徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法	シラバス 科目番号	授業者	教室	参観 教員数	授業者	協力者
6月13日	木	2	保健福祉	看護	援助の人間関係論	97	講義	12158	舟井貴久子	3807	4	1	0
6月27日	木	3	人間生活	食物栄養	食品加工学	54	講義	10115	亀村 典生	9202	3	1	0
6月28日	金	4	薬	薬	物理化学3	63	通常講義	13043	堂上 美和	24202	4	1	0
7月16日	火	2	人間生活	心理	心理統計学演習	35	演習	13725	岡林 春雄	9号館8階 ゼミ室①	1	1	0
7月18日	木	4	総合政策	総合政策	開発経済学	27	反転授業 ディスカッション	12710	水ノ上智邦	231007	2	1	0

## 香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法	シラバス 科目番号	授業者	教室	参観 教員数	授業者	協力者
6月10日	月	2	文	英語英米文化	英語史 I	14	講義 課題プリント	11735	井田 瑠穂	文307	3	1	0
7月19日	金	3	香川薬学	薬	治療薬学3	40	講義 (スライドと補助資料)	11395	池田 博昭	121	23	1	0

## 令和元(2019)年度 後期 研究授業一覧

## 徳島キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法※	シラバス 科目番号	授業者	教室	参観 教員数	授業者	協力者
9月26日	木	3	音楽	音楽	音楽鑑賞B	25	講義と演習	13751	Giuseppe Mariotti	5号館6階 5601室	2	1	1
9月27日	金	3	短期大学部	商科	秘書実務	28	講義 グループワーク	12675	川道 映里	25102②	3	1	0
10月29日	火	2	保健福祉	看護	精神看護援助論	109	講義	12188	田村 幸子	3807	5	1	0
11月15日	金	4	薬	薬	薬物構造学	63	講義と演習	14235	葛西 祐介	24202	11	1	0
11月18日	月	2	保健福祉	人間福祉	社会保証Ⅱ	15	講義と演習	12290	桃井 克将	25号館4階 スタジオ型講義室	2	1	1
11月19日	火	1	保健福祉	口腔保健	生化学	8	チョークトーク	10059	三宅洋一郎	2509	2	1	0
11月27日	水	4	人間生活	メディアデザイン	プログラミング応用	12	講義	12830	篠原 靖典	マルチメディア	4	1	1
12月3日	火	1	人間生活	建築デザイン	構造力学Ⅰ	45	講義と演習	10038	笠井 敬正	231107	2	1	0
12月18日	水	3	人間生活	人間生活	臨床看護学	31	講義 グループワーク	13731	竹内 理恵	1号館3階 1308	1	1	0
12月19日	木	2	人間生活	児童	保育の心理学Ⅱ	25	一斉講義、個人・グ ループワーク	13064	金子紗枝子	25号館4階 スタジオ型講義室	3	1	0
1月9日	木	2	保健福祉	理学療法	理学療法評価学Ⅰ	62	講義と実技	11776	榎 勇人	23号館5階 理学療法評価学実習室	0	1	1

## 香川キャンパス

授業日	曜日	講時	学部	学科	科目	受講 学生数	教授法※	シラバス 科目番号	授業者	教室	参観 教員数	授業者	協力者
9月27日	金	1	理工	機械創造工 電子情報工	流体力学Ⅱ	37	講義と演習	11344	新開 良樹	10号館3階 工302室	1	1	1
10月23日	水	3	文	文化財	文化財実習Ⅱ	8	講義と実技(ド ローンの操作)	10782	古田 昇	香川薬学部 芝生広場	3	1	0
11月18日	月	3	香川薬	薬	治療薬学5	40	講義(スライド と補助資料)	11334	伊藤 康一	121	21	1	0
12月20日	金	2	保健福祉	臨床工	人工臓器学	41	講義・演習	10518	工藤 哲	3341	5	1	0
1月10日	金	3	保健福祉	診療放射線	医用画像工学演習	41	講義	10633	松崎 健司	15号館2階 医用画像科学実習室	0	1	0
1月24日	金	3・4	理工	ナノ物質工	プロジェクトラボB	14	学生によるプレゼ ンテーション	0000010002 0000020004 0000030004	水野 貴之	ナノテク実験室	目標 設置型	1	6

(様式)

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部		学 科	
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	( )
授業協力者		実 施 教 室	
実 施 日 時	平成 年 月 日 曜日 講時		
対 象 学 生			受講学生数： 名
教 授 法			
授業テーマ			
研究授業内容自己評価			
研究授業参観者の意見・感想			
授業参観教員数	名		

研究授業（目標設定型）記録			
学 部		学 科	
実施代表者			
実施期間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日		
目標の説明			
対象学年 または科目	受講学生数： 名		
具体的な取組み方法			
結果			
協力教員数	名 (内訳 )		

## 令和元(2019)年度 卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート

実施期間	令和元年1月8日(水)～3月18日(水)
実施人数	学部(大学院・専攻科含む) 923人 短期大学部 97人 合 計 1,020人
回答数・回答率	743人 72.8%

(回答の選択肢番号の意味)

5. そう思う
4. ややそう思う
3. どちらでもない
2. ややそう思わない
1. そう思わない

## 6-2 (大学全体)

2019年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 (徳島文理大学全体)

徳島文理大学

対象者数	1020
回答者数	743
回答率	72.8%

### I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	319	424	0
	42.9%	57.1%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	92	514	125	12	0	0
	12.4%	69.2%	16.8%	1.6%	0.0%	0.0%

卒業後 の進路	就職	進学	未定	無効
	638	36	69	0
	85.9%	4.8%	9.3%	0.0%

あなたの成績につい て一番多かったのは	優	良	可	無効
	319	279	145	0
	42.9%	37.6%	19.5%	0.0%

### II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.15	293	311	104	24	11	743	0
			39.4%	41.9%	14.0%	3.2%	1.5%		
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.01	227	352	121	28	15	743	0
			30.6%	47.4%	16.3%	3.8%	2.0%		
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.23	347	276	81	24	15	743	0
			46.7%	37.1%	10.9%	3.2%	2.0%		
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.24	329	308	76	15	15	743	0
			44.3%	41.5%	10.2%	2.0%	2.0%		
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.09	307	262	124	31	19	743	0
			41.3%	35.3%	16.7%	4.2%	2.6%		
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	3.95	258	278	144	39	24	743	0
			34.7%	37.4%	19.4%	5.2%	3.2%		

### III. 大学の施設および支援体制について

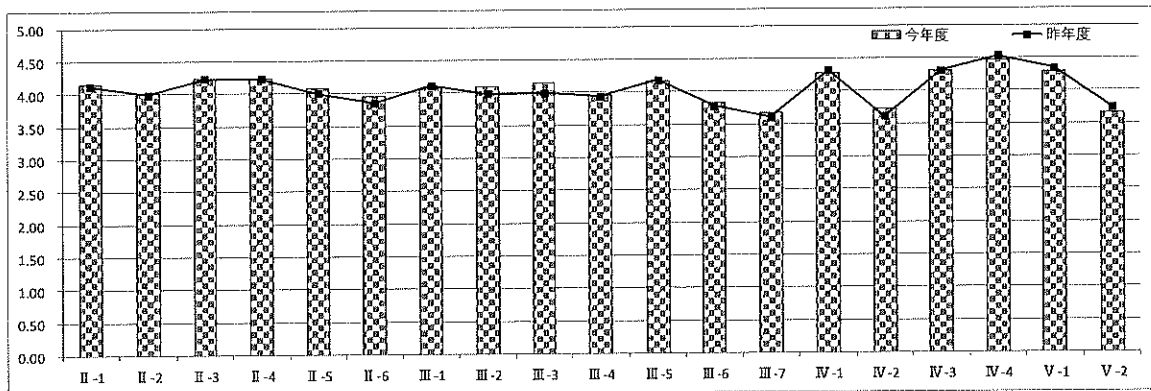
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.07	316	249	117	39	22	743	0
			42.5%	33.5%	15.7%	5.2%	3.0%		
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.09	332	217	143	34	17	743	0
			44.7%	29.2%	19.2%	4.6%	2.3%		
3	図書館は利用しやすかったですか	4.15	347	234	109	32	21	743	0
			46.7%	31.5%	14.7%	4.3%	2.8%		
4	ポータルサイトや学内のFCは利用しやすかったですか	3.96	279	257	139	34	34	743	0
			37.6%	34.6%	18.7%	4.6%	4.6%		
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.17	320	283	96	32	12	743	0
			43.1%	38.1%	12.9%	4.3%	1.6%		
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.83	291	222	105	64	61	743	0
			39.2%	29.9%	14.1%	8.6%	8.2%		
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.68	221	200	223	59	40	743	0
			29.7%	26.9%	30.0%	7.9%	5.4%		

### IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.27	363	267	75	25	13	743	0
			48.9%	35.9%	10.1%	3.4%	1.7%		
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.72	245	192	208	47	51	743	0
			33.0%	25.8%	28.0%	6.3%	6.9%		
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.30	416	200	86	16	25	743	0
			56.0%	26.9%	11.6%	2.2%	3.4%		
4	よき友と出会えましたか	4.47	508	140	57	15	23	743	0
			68.4%	18.8%	7.7%	2.0%	3.1%		

### V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.29	387	237	81	21	17	743	0
			52.1%	31.9%	10.9%	2.8%	2.3%		
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.66	219	225	189	44	66	743	0
			29.5%	30.3%	25.4%	5.9%	8.9%		



### 6-3 (大学院・専攻科・学部全体)

2019年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 (大学院・専攻科・学部全体) 徳島文理大学

対象者数	923
回答者数	668
回答率	72.4%

#### I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	313	355	0
	46.9%	53.1%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	18	513	125	12	0	0
	2.7%	76.8%	18.7%	1.8%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	574	31	63	0
	85.9%	4.6%	9.4%	0.0%

あなたの成績につい て一番多かったのは	優	良	可	無効
	282	246	140	0
	42.2%	36.8%	21.0%	0.0%

#### II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.13	259 38.8%	280 41.9%	96 14.4%	22 3.3%	11 1.6%	668	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3.98	196 29.3%	316 47.3%	118 17.7%	23 3.4%	15 2.2%	668	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.24	310 46.4%	252 37.7%	75 11.2%	18 2.7%	13 1.9%	668	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.23	296 44.3%	272 40.7%	72 10.8%	14 2.1%	14 2.1%	668	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.07	273 40.9%	234 35.0%	116 17.4%	28 4.2%	17 2.5%	668	0
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	3.92	228 34.1%	243 36.4%	136 20.4%	38 5.7%	23 3.4%	668	0

#### III. 大学の施設および支援体制について

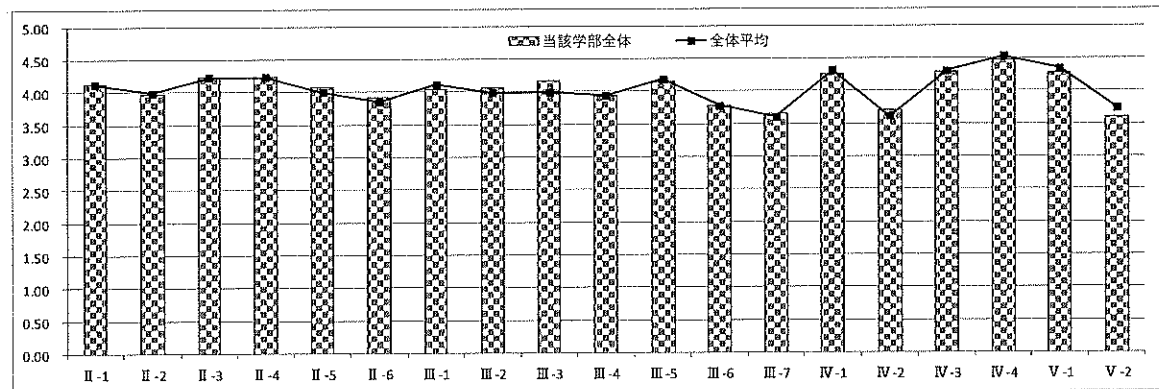
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.05	279 41.8%	220 32.9%	113 16.9%	35 5.2%	21 3.1%	668	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.06	289 43.3%	195 29.2%	136 20.4%	32 4.8%	16 2.4%	668	0
3	図書館は利用しやすかったですか	4.16	315 47.2%	210 31.4%	97 14.5%	25 3.9%	20 3.0%	668	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	3.94	249 37.3%	228 34.1%	128 19.2%	30 4.5%	33 4.9%	668	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.15	283 42.4%	256 38.3%	88 13.2%	29 4.3%	12 1.8%	668	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	3.78	252 37.7%	196 29.3%	98 14.7%	62 9.3%	60 9.0%	668	0
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.66	196 29.3%	176 26.3%	204 30.5%	54 8.1%	38 5.7%	668	0

#### IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.25	322 48.2%	239 35.8%	70 10.5%	24 3.6%	13 1.9%	668	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.70	217 32.5%	169 25.3%	192 28.7%	44 6.6%	46 6.9%	668	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.29	371 55.5%	182 27.2%	77 11.5%	15 2.2%	23 3.4%	668	0
4	よき友と出会えましたか	4.47	457 68.4%	126 18.9%	50 7.5%	13 1.9%	22 3.3%	668	0

#### V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.27	345 51.6%	212 31.7%	76 11.4%	18 2.7%	17 2.5%	668	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	3.60	185 27.7%	203 30.4%	174 26.0%	43 6.4%	63 9.4%	668	0



# 6-4 (短期大学部全体)

2019年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果 (短期大学部)

徳島文理大学

対象者数	97
回答者数	75
回答率	77.3%

## I. 記入者について

性別	男性	女性	無効
	6	69	0
	8.0%	92.0%	0.0%

現所属学科 の在籍年数	1,2年	3,4年	5,6年	7,8年	9年以上	無効
	74	1	0	0	0	0
	98.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

卒業後の 進路	就職	進学	未定	無効
	64	5	6	0
	85.3%	6.7%	8.0%	0.0%

あなたの成績につい て一番多かったのは	優	良	可	無効
	37	33	5	0
	49.3%	44.0%	6.7%	0.0%

## II. 授業・教育課程について (全体として)

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業科目は充実していましたか	4.29	34 45.3%	31 41.3%	8 10.7%	2 2.7%	0 0.0%	75	0
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	4.24	31 41.3%	36 48.0%	3 4.0%	5 6.7%	0 0.0%	75	0
3	専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を 修得できましたか	4.17	37 49.3%	24 32.0%	6 8.0%	6 8.0%	2 2.7%	75	0
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4.32	33 44.0%	36 48.0%	4 5.3%	1 1.3%	1 1.3%	75	0
5	授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は 充実していましたか	4.19	34 45.3%	28 37.3%	8 10.7%	3 4.0%	2 2.7%	75	0
6	課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか	4.23	30 40.0%	35 46.7%	8 10.7%	1 1.3%	1 1.3%	75	0

## III. 大学の施設および支援体制について

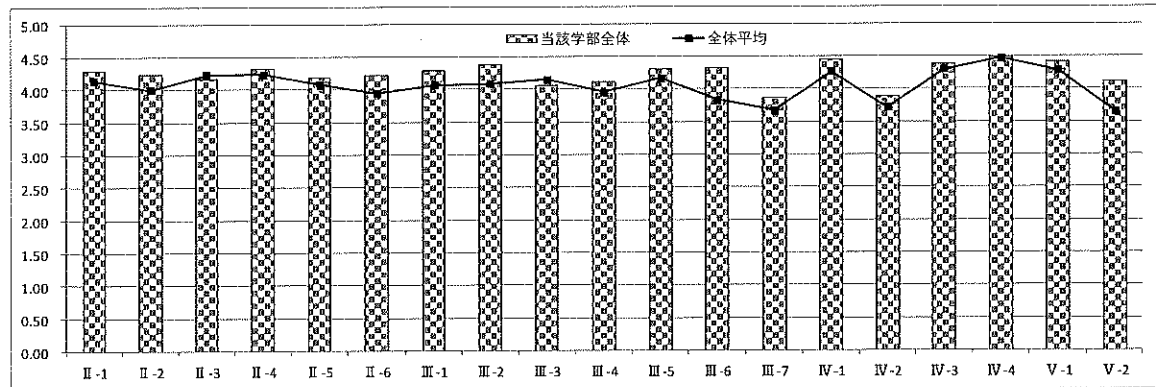
No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	履修登録の支援は役に立ちましたか	4.29	37 49.3%	29 38.7%	4 5.3%	4 5.3%	1 1.3%	75	0
2	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	4.39	43 57.3%	22 29.3%	7 9.3%	2 2.7%	1 1.3%	75	0
3	図書館は利用しやすかったですか	4.07	32 42.7%	24 32.0%	12 16.0%	6 8.0%	1 1.3%	75	0
4	ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか	4.11	30 40.0%	29 38.7%	11 14.7%	4 5.3%	1 1.3%	75	0
5	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	4.31	37 49.3%	27 36.0%	8 10.7%	3 4.0%	0 0.0%	75	0
6	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	4.33	39 52.0%	26 34.7%	7 9.3%	2 2.7%	1 1.3%	75	0
7	生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる 体制は整っていましたか	3.87	25 33.3%	24 32.0%	19 25.3%	5 6.7%	2 2.7%	75	0

## IV. キャンパスライフについて

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	キャンパスは清潔でしたか	4.45	41 54.7%	28 37.3%	5 6.7%	1 1.3%	0 0.0%	75	0
2	クラブやサークル活動は参加しやすかったですか	3.88	28 37.3%	23 30.7%	16 21.3%	3 4.0%	5 6.7%	75	0
3	頼りになる教員に出会えましたか	4.37	45 60.0%	18 24.0%	9 12.0%	1 1.3%	2 2.7%	75	0
4	よき友と出会えましたか	4.49	51 68.0%	14 18.7%	7 9.3%	2 2.7%	1 1.3%	75	0

## V. 総合評価

No.	設問文	平均点	上段：回答数 / 下段：回答率 (%)					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	4.41	42 56.0%	25 33.3%	5 6.7%	3 4.0%	0 0.0%	75	0
2	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと 思いますか	4.11	34 45.3%	22 29.3%	15 20.0%	1 1.3%	3 4.0%	75	0





## 6-5 (アンケートの内容)

### I 回答者(あなた)についてお尋ねします

- 1 性別を教えてください [必須]
  - ・男性
  - ・女性
- 2 現所属学科の在籍年数を教えてください [必須]
  - ・1年
  - ・2年
  - ・3年
  - ・4年
  - ・5年
  - ・6年
  - ・7年
  - ・8年
  - ・9年以上
- 3 卒業後の進路(回答時の状態)について教えてください [必須]
  - ・就職
  - ・進学
  - ・未定
- 4 あなたの成績について教えてください [必須]
  - ・いちばん多かったのは「優」だと思う
  - ・いちばん多かったのは「良」だと思う
  - ・いちばん多かったのは「可」だと思う

### II 授業・教育課程について(全体として)

- 1 授業科目は充実していましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 2 授業や実習内容はわかりやすかったですか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 3 専門的な知識や技能(免許・資格を含む)を修得できましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 4 教育に対する熱意は感じられましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 5 授業以外の指導(学外実習、見学、補習など)は充実していましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 6 課題(宿題やレポートなど)の量は適切でしたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない

### III 大学の設備および支援体制についてお尋ねします(全体として)

- 1 履修登録の支援は役に立ちましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 2 就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 3 図書館は利用しやすかったですか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 4 ポータルサイトや学内のPCは利用しやすかったですか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 5 授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 6 食堂や売店・コンビニに満足していましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 7 生活や健康に関する悩みがあった場合、相談できる体制は整っていましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない

### IV キャンパスライフについてお尋ねします

- 1 キャンパスは清潔でしたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 2 課外活動(部活やイベントなど)に満足しましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 3 頼りになる教員に出会えましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 4 よき友と出会えましたか [必須]
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない

### V 総合評価についてお尋ねします

- 1 総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない
- 2 知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか
  - ・そう思う
  - ・ややそう思う
  - ・どちらでもない
  - ・ややそう思わない
  - ・そう思わない

### VI 本学で良かった点(カリキュラム、設備、お世話になった教員・スタッフ名など)を具体的に書きください(2000字以内)

### VII ご要望・ご意見・改善案などをお書きください(2000字以内)

## 用語解説

## 【SPOD】

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）の頭文字をとって「SPOD」と呼ばれている。四国地区の大学及び高等専門学校の連携・協働によって、地区内のFD/S D事業の推進と大学等の教育力の向上を図ることを目的として、平成 20 年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートし、現在、四国地区にある 32 の高等教育機関が加盟するネットワーク。

## 【ファカルティ・ディベロップメント（FD）】

教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の実施、新任教員のための研修会の実施などを挙げることができる。

## 【スタッフ・ディベロップメント（SD）】

事務職員や技術職員など職員を対象とした、管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを指す。

## 【ディプロマ・ポリシー（DP）】

卒業認定・学位授与に関する基本的な方針。学部・学科が教育活動の成果として学生に保証する最低限の基本的な資質・養成する人材像と教育研究上の目的を記したものの。

## 【カリキュラム・ポリシー（CP）】

教育課程編成・実施の方針。DPを保証する体系性と整合性が担保されたカリキュラムを記したものの。

## 【アドミッション・ポリシー（AP）】

入学者受け入れ方針。各大学・学部がDPを踏まえ、どのような教育活動を行い、また、どのような学生を求めているのかなどの考え方をまとめたものの。

## 【アクティブ・ラーニング】

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的・倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学修等が含まれるが、教室内でのグループディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

## 【ルーブリック評価】

いくつかの評価項目について、各レベルの典型となる状況を評価尺度として記述し、学習者のパフォーマンスを評価するもの。通常、表のかたちで示され、判定結果を丸で囲うようにして採点する。学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を設定する。

## 【ポートフォリオ】

大学等の教員が自分の授業や指導の記録である「教育業績ファイル」を意味するティーチング・ポートフォリオと学生が学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集したものを指すラーニング・ポートフォリオがある。

## 【IR（機関調査）】

機関の計画策定、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる実践志向の強い組織的な調査分析活動。

## F D研究部会活動報告書 第11号

平成31年4月～令和2年3月

---

令和2年4月発行

編集	徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部FD研究部会		
発行	徳島文理大学		
	徳島キャンパス	〒770-8514	徳島県徳島市山城町西浜傍示180 電話：088-602-8000(代表)
	香川キャンパス	〒769-2193	香川県さぬき市志度1314-1 電話：087-894-5111(代表)

---